

国衙下辻遺跡

国衙下辻遺跡

—小規模土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

二〇一〇

2010

群馬県安中市教育委員会

国 衙 下 辻 遺 跡

— 小規模土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2010

群馬県安中市教育委員会



国衙下辻遺跡遠景（北西より）

序

安中市松井田町国衙地区は、碓氷川の支流である九十九川と増田川に挟まれた台地上に位置しています。周辺は比較的平坦な地形が広がっており、「国衙」という地名からも、太古よりこの地が松井田地区の中心的地域として、人々の生活の舞台となっていたと考えられます。

さて、ここに報告いたします「国衙下辻遺跡」は、小規模土地改良事業（農道拡幅、一部新設）に伴い調査されました。国衙地区周辺においては、九十九川・増田川の両河川に近い下位段丘上は、すでに土地改良事業が行われており、規格化された水田が整然と並ぶ風景が広がっています。一方、住宅が点在する上位段丘上は土地改良事業が行われておらず、比較的平坦で広い畠地であるにもかかわらず、農道の整備が遅っていました。現代の機械化農業に対応できる農道整備は、時代の当然の流れと言えましょう。

遺跡地周辺は、これまでにも古墳をはじめとして多くの遺跡の存在が確認され、調査が行われてきた地域です。また、「松井田町誌」によると東山道が通過していたと推定されている地域でもあります。今回は農道建設予定地の一部分の発掘調査でしたので、調査面積はけして広くはありません。また、検出された遺構も弥生時代から古墳時代の住居址8軒、古墳1基等と数は多くありません。しかしながら、これらは紛れも無く国衙地区の歴史の足跡であり、郷土の歴史を解明する一助となるものと信じています。本書を幅広く活用していただければ誠に幸いと存じます。

最後になりましたが、調査に参加された皆様、報告書刊行に至るまでご指導・ご協力をいたただいた多くの方々に、厚く御礼申し上げ序と致します。

平成22年1月

安中市教育委員会
教育長 中澤 四郎

例　　言

- 1 本書は、小規模土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 調査地は群馬県安中市松井田町国衙下辻 329 他である。遺跡名は国衙下辻遺跡（略号K 7）、調査面積は約 570 m²である。
- 3 調査は安中市の委託を受けて、安中市教育委員会が実施した。
- 4 確認調査については国庫補助金・県費補助金により実施した。本調査及び整理作業については、原因者である安中市の負担により、安中市教育委員会が直営で実施した。
- 5 調査期間　　○発掘調査 平成 20 年度 平成 20 年 12 月 1 日～平成 21 年 1 月 16 日
　　○整理作業 平成 21 年度 平成 21 年 1 月 19 日～11 月 30 日まで断続的に実施
- 6 出土遺物・資料類は安中市教育委員会が保管している。
- 7 発掘調査・整理作業ともに壁伸明（安中市教育委員会学習の森文化財係主査）が担当した。
- 8 発掘調査に従事していただいたのは、次の方々である。（敬称略）
生駒 朝男 小野 穀 須藤 利夫 須藤 はるの 多胡 わぐり 中里 徳子
橋爪 千昭 萩原 今朝次
- 9 基準杭測量は上毛測量設計事務所（株）に委託した。
- 10 遺構写真的撮影は壁が行った。遺跡の航空写真撮影は（株）測研に委託した。
- 11 遺構実測の一部を（株）測研に委託した。
- 12 整理作業の分担は以下のとおりである。

遺物接合・復元	小野 穀	須藤 利夫	須藤 はるの	橋爪 千昭
遺物実測・拓本・トレース	上原 由美	鬼形 敦子	中里 徳子	廣上 良枝
	藤井 みゆき			
遺構図作成	上原 由美	鬼形 敦子	中里 徳子	廣上 良枝
	藤井 みゆき			
遺物観察・編集・執筆 他	壁 伸明			
- 13 遺物実測・トレース・遺物観察表作成・遺物写真撮影の一部を（有）前橋文化財研究所に委託した。
- 14 発掘調査及び整理作業にあたっては、次の方々・機関よりご教示・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表します。（敬称略・順不同）

石丸 敦史	神戸 壽語	坂爪 久純	大工原 豊	土屋 積	長井 正欣
町田 勝則	若狭 徹	(株)飯沼組	長野県立歴史館	(有)毛野考古学研究所	
- 15 調査組織（平成 20 年度・21 年度）

安中市教育委員会事務局	
教育長 中澤 四郎	
教育部長 富沢 春寿（～平成 20 年 5 月）	
本多 英夫（平成 20 年 5 月～）	
学習の森所長（参事）	小島 成公
文化財係長（課長補佐）	藤巻 正勝（事務総括）
主査	蜂須賀 まゆみ（経理担当）
主査（文化財保護主事）	壁 伸明（発掘調査・整理作業担当）
主査（文化財保護主事）	千田 庄雄
主査（文化財保護主事）	深町 真
主査	新井 雅彦（平成 20 年度）
主任（文化財保護主事）	井上 慎也
主事補	小此木 克之（平成 21 年度）

凡 例

- 1 各遺構図方位記号は国家座標の北を表している。座標系は国家座標第IXである。
- 2 遺構断面図、等高線に付した数字は標高を表す。
- 3 遺構実測図の縮尺は住居 1/60、土坑・溝・ピット 1/40 を基本としている。これ以外については、図中に縮尺を記した。
- 4 遺物実測図の縮尺は 1/4 を基本としている。これ以外については、図中に縮尺を記した。
- 5 図中のスクリーントーン は、焼土・炭化物の範囲を示している。
- 6 繩文土器のうち、図中の土器断面に●を付してあるものは繩文土器を表している。
- 7 遺物の観察については遺物観察表を用いて記した。
- 8 土層説明中の記号・略称は次のとおりである。

土層名称及び量の基準：「新版標準土色帖」による。

色調<：より明るい方向を示す(暗<明)。

しまり、粘性 ◎：あり ○：ややあり △：あまりない ×：なし

混入物の量 ◎：大量(30～50%) ○：多量(15～25%) △：少量(5～10%) ×：若干(1～3%)
×：なし

混入物 RP：ローム粒子(溶け込んだ状態) RB：ロームブロック(固まりの状態)

YP：浅間板鼻黄色軽石

- 9 ピットの深さ ○ 0～19cm ○ 20～39cm ○ 40～59cm ○ 60cm以上

- 10 本文及び表中等で示す火山灰の名称は、以下の記号を用いている。

浅間A軽石：As-A 浅間B軽石：As-B 浅間C軽石：As-C 浅間板鼻黄色軽石層：As-YP

- 11 遺物分布図に用いた記号は以下のとおりである。

10 g 100 g 1000 g

弥生土器	壺・高杯系	▲	▲	▲
弥生土器	甕・壺系	●	●	●
土師器	壺・高杯系	△	△	△
土師器	甕・壺系	○	○	○
円筒埴輪		□	□	□

- 12 図版中等において、略号として遺構名を以下の例のように表記している場合がある。

(例)

弥生時代 1 号住居址→Y 1 H

古墳時代 1 号住居址→H 1 H

1 号溝 →M 1

1 号土坑 →D 1

1 号ピット →P 1

- 13 遺構番号は、試掘調査で確認されたものから順に付している。そのため、本書における報告の中では、必ずしも 1 から始まっていない。また、発掘調査中に付した遺構名・番号を、整理作業段階で変更したものは以下のとおりである。出土遺物の注記・台帳の記載等は旧遺構名で行っている。

(旧遺構名) (報告書記載遺構名) (変更理由)

Y 2 H H 7 H 弥生時代ではなく古墳時代の所産と判断した。

M 4-1 号溝 4 号溝 M 4-2 号溝を古墳周堀と判断し、枝番が不要となった。

M 4-2 号溝 1 号古墳 M 4-2 号溝としたものが古墳の周堀であると判断した。

目

序文
例言
凡例
目次

第1章 経過	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 発掘作業の経過	1
第3節 整理作業の経過	1
第2章 遺跡の位置と環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の方法	5
第1節 調査の方法	5
第2節 基本層序	5

挿図

第1図	周辺の遺跡位置図	3
第2図	基本土層模式図	5
第3図	グリッド設定図(1)	6
第4図	グリッド設定図(2)・全体図(1)	7
第5図	全体図(2)	9
第6図	Y 1号住居址	12
第7図	Y 1号住居址出土遺物(1)	12
第8図	Y 1号住居址出土遺物(2)	13
第9図	H 1号住居址(1)	14
第10図	H 1号住居址(2)	15
第11図	H 1号住居址出土遺物	16
第12図	H 2号住居址	17
第13図	H 2号住居址出土遺物	17
第14図	H 3号住居址	18
第15図	H 4号住居址	19
第16図	H 4号住居址出土遺物(1)	19
第17図	H 4号住居址出土遺物(2)	20
第18図	H 5号住居址	22
第19図	H 5号住居址出土遺物	23

次

第4章 遺構と遺物	11
第1節 概要	11
第2節 弥生時代	11
(1) 壺穴住居址	11
第3節 古墳時代	
(1) 壺穴住居址	14
(2) 古墳	29
(3) 溝	33
(4) 土坑	33
(5) ピット	35
第4節 中世	
(1) 性格不明遺構	37
第5節 遺構外出土遺物	38
第5章 総括	41
写真図版	
抄録	

目次

第20図	H 6号住居址(1)	24
第21図	H 6号住居址(2)	25
第22図	H 6号住居址出土遺物	25
第23図	H 7号住居址(1)	26
第24図	H 7号住居址(2)	27
第25図	H 7号住居址出土遺物	27
第26図	4号溝・1号古墳(1)	29
第27図	4号溝・1号古墳(2)	30
第28図	1号古墳出土遺物(1)	31
第29図	1号古墳出土遺物(2)	32
第30図	3号溝	33
第31図	2~8号土坑・5号溝(1)	34
第32図	2~8号土坑・5号溝(2)	35
第33図	3号土坑出土遺物	35
第34図	1~18号ピット	36
第35図	遺構外出土遺物	38
第36図	性格不明遺構	39
第37図	国衙下辻遺跡・松原遺跡・ 中村遺跡出土独鈷石状石器	41

表 目 次

第1表	周辺の遺跡一覧	4	第9表	1号古墳出土遺物観察表	33
第2表	Y1号住居址出土遺物観察表	14	第10表	3号土坑出土遺物観察表	35
第3表	H1号住居址出土遺物観察表	16	第11表	溝観察表	37
第4表	H2号住居址出土遺物観察表	18	第12表	土坑観察表	37
第5表	H4号住居址出土遺物観察表	21	第13表	ピット観察表	37
第6表	H5号住居址出土遺物観察表	23	第14表	遺構外出土遺物観察表	38
第7表	H6号住居址出土遺物観察表	25	第15表	独鉛石状石器計測表	42
第8表	H7号住居址出土遺物観察表	28	第16表	古墳時代遺構時期別一覧	42

写真図版目次

P L 1	Y1号住居址セクション	P L 7	6号土坑完掘状況
	Y1号住居址遺物出土状況		7号土坑完掘状況
	Y1号住居址完掘状況		5号溝・8号土坑完掘状況
P L 2	H1号住居址カマドセクション		性格不明遺構セクション
	H1号住居址1号ピットセクション		性格不明遺構検出状況
	H1号住居址遺物出土状況	P L 8	Y1号住居址出土遺物
	H1号住居址カマド検出状況	P L 9	H1号住居址出土遺物
	H2号住居址セクション		H2号住居址出土遺物
	H2号住居址完掘状況	P L 10	H4号住居址出土遺物
	H3号住居址セクション	P L 11	H4号住居址出土遺物
	H3号住居址完掘状況		H5号住居址出土遺物
P L 3	H4号住居址遺物出土状況	P L 12	H6号住居址出土遺物
	H4号住居址完掘状況		H7号住居址出土遺物
P L 4	H5号住居址貯蔵穴遺物出土状況	P L 13	1号古墳出土遺物
	H5号住居址完掘状況	P L 14	1号古墳出土遺物
	H6号住居址遺物出土状況		3号土坑出土遺物
	H6号住居址完掘状況		遺構外出土遺物
	H7号住居址遺物出土状況		
	H7号住居址完掘状況		
	H7号住居址カマド検出状況		
P L 5	1号古墳周堀遺物出土状況		
	1号古墳周堀完掘状況		
P L 6	3号溝セクション		
	3号溝完掘状況		
	2号土坑セクション		
	2号土坑完掘状況		
	3号土坑遺物出土状況		
	3号土坑完掘状況		
	4号土坑完掘状況		
	5号土坑完掘状況		

第1章 経過

第1節 調査に至る経過

群馬県安中市は、奇峰妙義山・清流碓氷川等を有する風光明媚な地である。同市松井田町国衙地区は、碓氷川の支流である九十九川と増田川に挟まれたなだらかな丘陵上に位置している。国衙地区的南北を流れる両河川の下位段丘上水田は、すでに土地改良事業が終了しており、現代の機械化農業に対応した区画となっている。一方、今回の調査地である上位段丘上には畑地が広がっている。この畑地帯は土地改良事業は実施されていないが、比較的平坦で広い区画が多い。しかし、これらの畑地を結ぶ農道は、軽自動車が通行できる幅員しかないものがほとんどである。大型農業機械が通行可能な農道建設の要望は、以前より地元にあった。

平成20年5月31日、安中市役所松井田支所産業建設課（以下産業建設課）より同市教育委員会へ、国衙下辻地区農道建設予定地における埋蔵文化財について照会があった。開発予定地周辺は、19年度に実施した詳細遺物分布調査により遺物の散布が確認されている地域である。また、古墳が多数存在する地域であるため、教育委員会は6月18日試掘調査が必要である旨を回答した。6月25日、産業建設課より試掘調査依頼が提出された。これを受けて、農作物の収穫が終了した11月2日より試掘調査を実施した。試掘調査の結果、弥生～古墳時代の住居址が10数軒確認された。産業建設課と教育委員会の協議の結果、計画の変更は不可能であるという結論に達したため、発掘通知等の法的手続きが完了した12月1日より本調査を実施し、記録保存を図ることとした。

なお、今回本調査を実施しなかった開発区域北半においても、弥生～古墳時代の竪穴住居址が確認されている。しかし、今回建設される農道が砂利敷であること、北半部分は切土がほとんど無く遺構確認面まで1m程度の保護層が保てること、そして時間的制約があること等の理由により、協議の結果、同部分については舗装工事を実施する前に改めて本調査を行うことにした。

第2節 発掘作業の経過

本遺跡は、試掘調査より弥生～古墳時代の集落遺跡と想定されていた。試掘調査においては、農道建設予定地のほぼ全域にトレンチを入れた。そのうち遺構が確認された部分について、バックフォーにより表土掘削を行った。ただし、前節で述べた理由により、今回北半部分の本調査は実施していない。本調査を実施した部分は、北よりA区・B区・CD区・E区と呼称した。表土掘削後、ジョレンによるプラン確認を行い、各遺構の精査を実施した。遺構の平面測量は光波測量を基本とし、スケールは原則的に竪穴住居址1/20、溝・土坑1/40、全体図1/80とした。断面測量については原則1/20で行った。遺構の記録写真は、35mmカラーフィルム・白黒フィルムで壁が撮影を行った。作業風景等も適宜撮影した。各遺構の精査が終了した1月15日に航空写真撮影を実施した。その後、バックフォーにより埋め戻し、現地調査を終了した。

第3節 整理作業の経過

整理作業は、発掘調査で得られた図面・写真・出土遺物を整理し、各遺構・遺物の状態が客観的に把握できるように資料化することを主目的として実施した。

出土遺物は全て水洗を行い、小破片を除いて注記した。ただし、石鏃等は遺跡名・出土地点等を明記したパッケージに収納した。注記には下記のような略記号を使用した。

遺跡名→K7 A区→A（他の区も同様） 弥生時代住居跡→Y 古墳時代住居跡→H

接合・復元は可能な限り行った。接合にはセメダインCを、復元には必要に応じてエポキシ系樹脂修復剤を用いたが、基本的には補強を目的としているため、必要最小限の復元にとどめている。

遺物の接合・復元と並行して、図面基礎整理・各種台帳整理・写真整理等も実施した。遺物実測・トレース・遺物観察・写真撮影は、原則直営で行ったが、弥生土器・石器・鉄器の一部を（有）前橋文化財研究所に委託した。遺構図・遺物実測図はイラストレーター10でデジタルトレースを行い作業の効率化を図った。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

安中市は関東平野の周辺部である群馬県の南西部に位置し、北から東は高崎市、南東は富岡市、南西は下仁田町。そして西は碓氷峠を挟んで長野県北佐久郡軽井沢町と接している。長野県との県境をなす市の北西部から南西部にかけては、標高 1000 m を超える山々が連なっている。この付近からは数多くの小河川が流出しており、これらは合流を重ねつつ市東部の平野へと至り、やがては高崎市で利根川と合流している。これらの河川の中で比較的大規模なものが増田川・九十九川・碓氷川である。この 3 本の河川は、並行するように北西より南東方向へ流下している。それぞれの河川の間には河岸段丘が発達し、分水嶺となる丘陵が河川に並走するよう延びている。本遺跡が位置するのは、九十九川と増田川に挟まれた細野原丘陵の末端付近であり、遺跡地の東側が増田川・九十九川の合流点である。細野原丘陵は、剣の峰(1429.6m)から南東に延びる松井田丘陵より霧積ダム東方付近で分岐し、高戸谷山(739.3m)を経て九十九川と増田川の合流点へと続く丘陵である。本丘陵の北には増田川を隔て長者久保・上野丘陵が並走し、九十九川を隔てた南には松井田丘陵が並走している。細野原丘陵は標高 500m 以下になるとだらかな地形が多くなる。丘陵上には比較的規模の大きい水田や畑地が営まれており、市内の主要な農耕地帯の一つとなっている。そして増田川と九十九川の合流点に近づく標高約 250 m 付近より丘陵はいっそうなだらかになり、丘陵先端にかけて国衙・下増田の集落や畑地帯が形成されている。遺跡の所在地は安中市松井田町国衙下辻 329 他である。遺跡の南西には、松井田丘陵越しに妙義山が偉容を示し、北東から西にかけては長野県との県境の山々を一望できる地である。

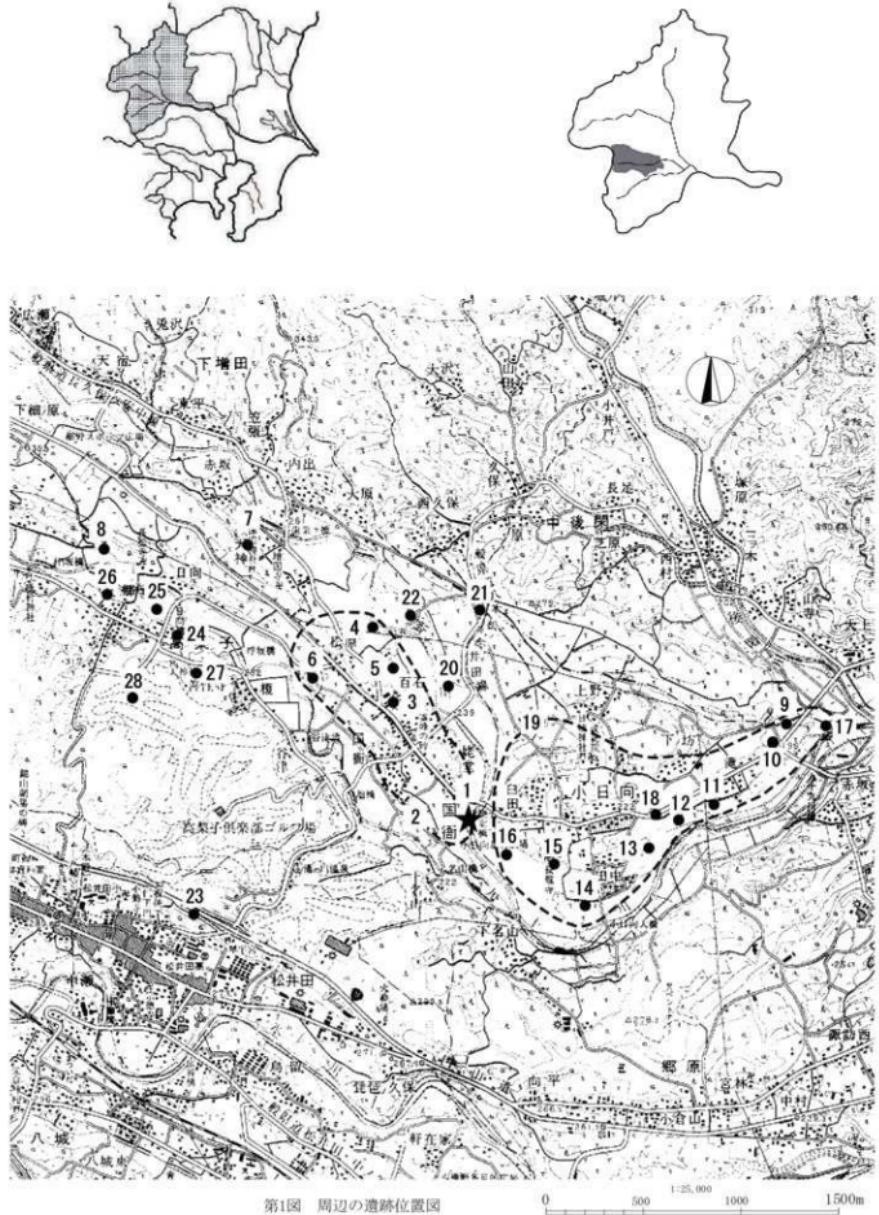
第2節 歴史的環境

本遺跡の周辺では、縄文時代～奈良・平安時代を中心に多くの遺跡が確認されている。それらについて概観する（括弧内数字は第 1 図及び第 1 表に対応する）。

本遺跡（1）に近い細野原丘陵南東端付近においては、広範にわたり縄文時代～近世の遺跡が確認されており、国衙遺跡群（2）を構成している。本遺跡も国衙遺跡群に属するものである。国衙遺跡群を構成する遺跡として、下増田松原遺跡（3）・下増田上田中遺跡（4）・下増田下田中遺跡（5）・国衙森浦朝日遺跡（6）等があげられる。また、古代律令体制期の官道である東山道は本地域を通過していたとする考えもある。さらに、本遺跡の西方の細野原丘陵上及び下位の段丘上においては、下増田天神原遺跡（7）・高梨子門坂遺跡（8）等が確認されている。

北の長者久保・上野丘陵上及び下位の段丘上においても多くの遺跡が存在する。本遺跡東方の小日向地区においては、土地改良事業に伴い平成 16 年度より発掘調査が開始され、縄文時代・弥生時代・古墳時代・平安時代の集落等が確認されている小日向遠丸遺跡（9）・小日向遠地谷戸遺跡（10）・小日向瀧遺跡（11）・小日向毫丁田遺跡（12）・小日向田中遺跡（13）・小日向田中西遺跡（14）・小日向白山遺跡（15）・小日向上新浜遺跡（16）の発掘調査が実施されている。また、周辺には天皇塚（17）・琴平山古墳（18）等多数の古墳が存在し、前述の 8 遺跡とともに小日向地区遺跡群（19）を構成している（『小日向地区遺跡群』については、今年度末報告書刊行予定）。さらに、本遺跡の北方・増田川を挟んだ対岸において、下増田百石遺跡（20）・下増田下原遺跡（21）・下増田十二平遺跡（22）等が調査されている。

南の松井田丘陵上には、奈良・平安時代の集落で、鉄器等の良好な資料が出土している愛宕山遺跡（23）が存在する。また、西方の九十九川右岸の高梨子地区にも高梨子八木田遺跡（24）・高梨子柳下遺跡（25）・高梨子森下遺跡（26）・高梨子中貝戸遺跡（27）・高梨子三次郎遺跡（28）等多数の遺跡が確認されている。



第1図 周辺の遺跡位置図

No	遺跡名	所在地	調査 文 件 等	弥生 古墳 奈良・平	備考	参考文献 No
1	国衙下辻遺跡	安中市松井田町国衙329他	○ ○	○ ○	本書報告遺跡	1
2	国衙遺跡群	安中市松井田町国衙40他	○ ○ ○	○ ○ ○	調文～平安時代集落、古墳等	2
3	下増田松原遺跡	安中市松井田町下増田447-1他	○ ○	○ ○	調文時代集落	
4	下増田上田中遺跡	安中市松井田町下増田556他	○ ○ ○	○ ○ ○	1号古墳はT字形石室を有する	
5	下増田下田中遺跡	安中市松井田町下増田甲360他	○ ○	○ ○	平成5年松井田町教育委員会調査	
6	国衙森涌朝日遺跡	安中市松井田町国衙21-1他	○ ○	○ ○	昭和59～60年松井田町教育委員会調査	3
7	下増田天神原遺跡	安中市松井田町下増田996他	○ ○	○ ○	△角墳形土製品出土（表探） 遺物散布地	
8	高梨子們反遺跡	安中市松井田町高梨子們反	○ ○	○ ○	弥生～古墳時代集落	4
9	小日向遠大遺跡	安中市松井田町小日向1,252他	○ ○	○ ○	弥生～古墳時代集落	
10	小日向遠地谷戸遺跡	安中市松井田町小日向1,155-1他	○ ○ ○	○ ○ ○	弥生時代集落、古墳	
11	小日向灘遺跡	安中市松井田町小日向943-3他	○ ○ ○	○ ○ ○	弥生時代集落、古墳	
12	小日向苞丁田遺跡	安中市松井田町小日向21他	○ ○ ○	○ ○ ○	弥生時代集落、古墳	
13	小日向田中遺跡	安中市松井田町小日向116他	○ ○ ○	○ ○ ○	弥生～古墳時代集落、古墳	
14	小日向田中西遺跡	安中市松井田町小日向259他	○ ○ ○	○ ○ ○	調文時代、古墳時代、奈良・平安時代集落	
15	小日向白山遺跡	安中市松井田町小日向456他	○ ○ ○	○ ○ ○	古墳時代集落	
16	小日向上新浜遺跡	安中市松井田町小日向522他	○ ○ ○	○ ○ ○	古墳時代集落	
17	天皇塚	安中市松井田町小日向1,188他	○ ○ ○	○ ○ ○	形象埴輪（馬・人物）出土	
18	琴平山古墳	安中市松井田町小日向857他	○ ○ ○	○ ○ ○	6世紀前半の前方後円墳	
19	小日向地区遺跡群	安中市松井田町小日向1,152他	○ ○ ○	○ ○ ○	弥生～古墳時代集落、古墳	
20	下増田百石遺跡	安中市松井田町下増田2,763他	○ ○ ○	○ ○ ○	平成5年松井田町教育委員会調査	
21	下増田下辻遺跡	安中市松井田町下増田2,674-1他	○ ○ ○	○ ○ ○	調文時代、奈良・平安時代集落	5
22	下増田十二平遺跡	安中市松井田町下増田甲2,999	○ ○ ○	○ ○ ○	平成8年松井田町教育委員会調査	
23	愛宕山遺跡	安中市松井田町松井田1,058他	○ ○ ○	○ ○ ○	古墳～平安時代集落	6
24	高梨子八木田遺跡	安中市松井田町高梨子字八木田	○ ○ ○	○ ○ ○	遺物散布地	7
25	高梨子柳下遺跡	安中市松井田町高梨子427他	○ ○ ○	○ ○ ○	A-s-B下水田	7
26	高梨子森下遺跡	安中市松井田町高梨子109他	○ ○ ○	○ ○ ○	古墳～平安時代集落	
27	高梨子中戸遺跡	安中市松井田町高梨子字中戸14	○ ○ ○	○ ○ ○	遺物散布地	
28	高梨子三次郎遺跡	安中市松井田町高梨子甲1,117他	○ ○ ○	○ ○ ○	調文時代、奈良・平安時代集落	8

(参考文献)

- 『国衙遺跡群II』1992 松井田町教育委員会
- 『下増田松原遺跡』2006 松井田町教育委員会
- 『下増田天神原遺跡』1993 松井田町教育委員会
- 『小日向遠地谷戸遺跡』1994 松井田町教育委員会
- 『下増田下原遺跡』2001 松井田町下増田下原遺跡調査会
- 『愛宕山遺跡』2000 群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 『高梨子們反遺跡群』2008 安中市教育委員会
- 『高梨子三次郎遺跡』1998 松井田町埋蔵文化調査会

第1表 周辺の遺跡一覧

第3章 調査の方法

第1節 調査の方法

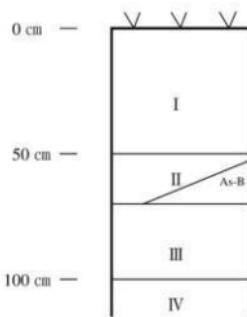
発掘調査の方法・手順は、ほぼ通例に準じているが、一部安中市教育委員会が実施している独自の方法を採用している。

発掘調査においては、バックフォーによる表土掘削後、ジョレンを用いて遺構プランの確認を行った。グリッドについては国家座標（世界測地系）に取り付け、開発区域全域に一辺 40 m の大グリッドと、それを 100 に分割した一辺 4 m の小グリッドを設定した。大グリッドは X = 36160.000, Y = -91200.000 を北西隅に持つグリッドを 1 A グリッドとし、南北方向へは数字で 1・2・3・…・12 とし、東方向へはアルファベットで A・B・C・D・E・F とし、数字とアルファベットとの組み合わせで表記した。小グリッドについては、各大グリッドの北西隅から東へ 00・01・02・… とし、大グリッドとの組み合わせで表している。さらに、各小グリッドを一辺 2 m の a～d の 4 区に分割した（第3図及び第4図参照）。検出された遺構については、遺構の内容に応じた精査を行い、遺構検出状況・土層断面・遺物出土状況・完掘状況等を、カラーフィルム・モノクロフィルム（35 mm）で撮影した。住居址の調査については「分層 16 分割法」を基本とし、4 本の土層観察用ベルトを十字に残し、層位毎に掘り下げ精査した。また、床面上付近より出土した遺物の一部は、出土時の形状・位置・高さ等を記録した。また、竈・貯蔵穴・柱穴等の住居址に関連する遺構は、16 分割とは別に遺構毎に遺物を取り上げた。竈及び土坑等の調査は、平面プランを確認後半裁した。そして土層の状況を、図面及び写真で記録した後完掘した。規模の大きい溝及び古墳の周堀については、任意の位置にベルトを設定し、土層堆積状況を記録した。また、任意の位置で区を設定し、区毎に遺物を取り上げた。1 号古墳周堀より出土した円筒埴輪の一部は、その出土形状・位置・高さを記録した。遺構平面図は、民間機関に委託し、光波測量により縮尺 1/40 を基本とし作成した。土層堆積状況等の断面図については直営で作成した。また、遺跡の全景写真は、民間機関に委託しラジコンヘリコプターにより撮影した。

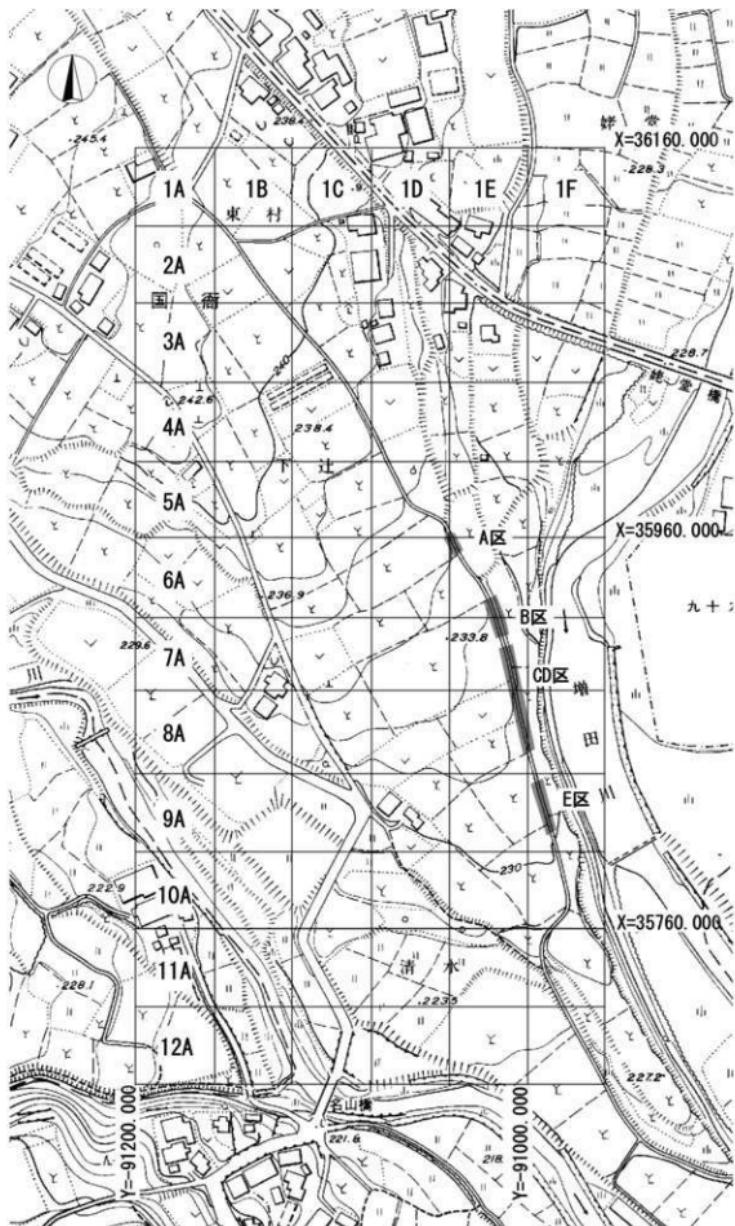
遺物整理は、遺物の洗浄・注記・接合・復元、実測・デジタルトレース・遺物観察表作成、写真撮影、図版作成の順に行なった。これに並行して遺構図の整理、デジタルトレース、遺構図版作成、さらに写真整理、写真図版作成を行なった。なお、遺物写真撮影にはデジタルカメラ（Nikon D90）を使用している。土器・石器等の出土遺物について、器種分類及び計測・計量を行い、各種台帳を作成した。さらに、これらの台帳のデータを利用し、住居址・古墳・溝の一部については、各区・層からの出土量が視覚的に分かるように「遺物分布図」を作成し掲載した。遺構・遺物図版、各種表等の作成・レイアウトには、積極的にパソコンを使用し、主にイラストレーター 10 によりデジタルデータ化し、作業効率の向上に努めた。

第2節 基本層序

本遺跡地の土層は大きく以下の 4 層に分類できる。	0 cm —
第 I 層 暗褐色土 現代の耕作土。As-A を全体に含む。	
第 II 層 黒褐色土 As-B 混土層。本層下位に As-B 一次堆積層が遺存する場合もある。	50 cm —
第 III 層 黒褐色土 直径数 mm 以下の白色バミス (As-C ?) を含む。	100 cm —
第 IV 層 黄褐色土 やや粘性を持つローム土。	
場所により土層状況は異なる。北に向かうほど第 II 層と第 III 層の遺存状況は良好である。A 区・C-D 区の一部は、第 II 層・第 III 層の遺存状況が不良であった。遺構の確認は第 III 層下位～第 IV 層上面で行った。	

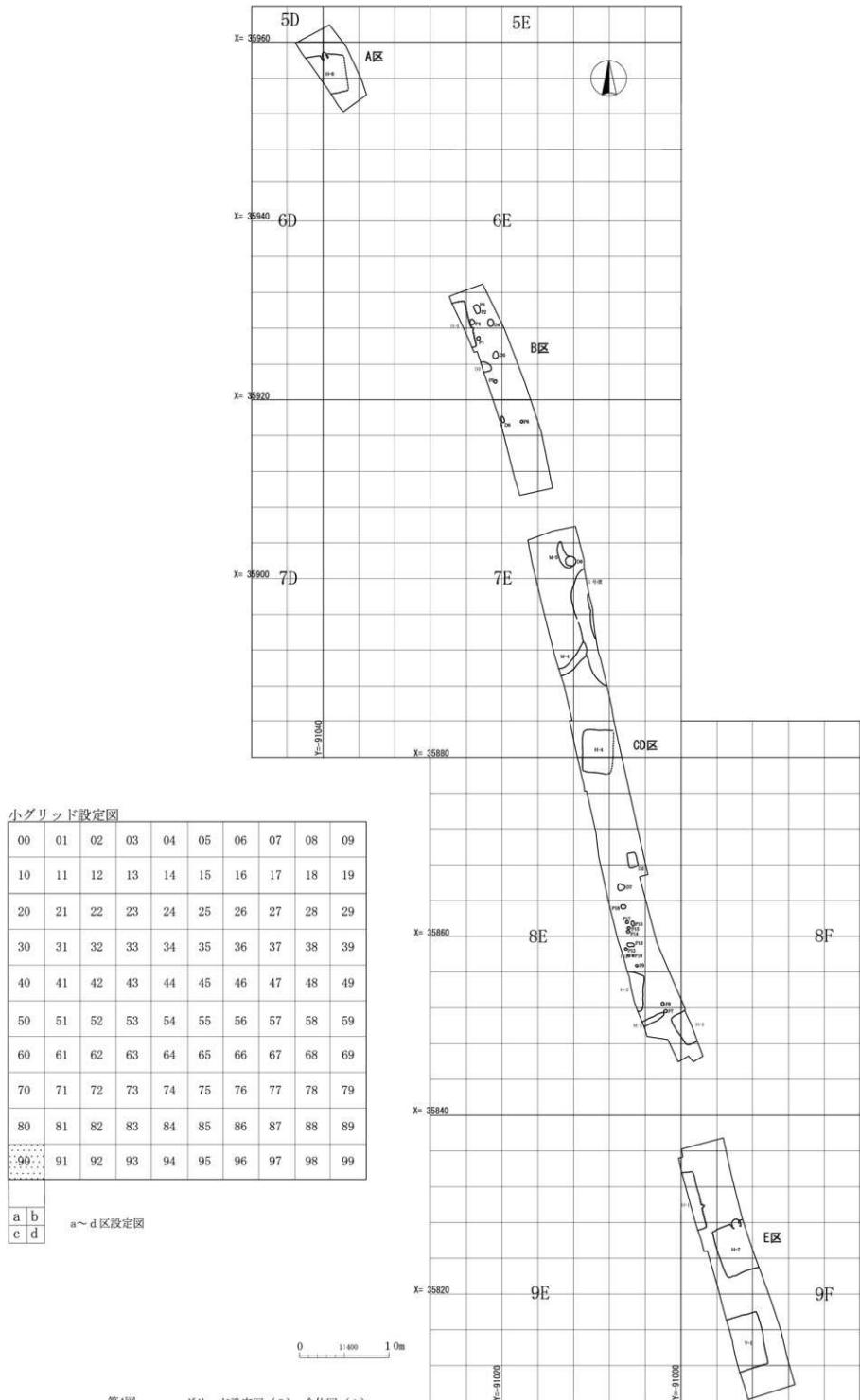


第2図 基本土層模式図

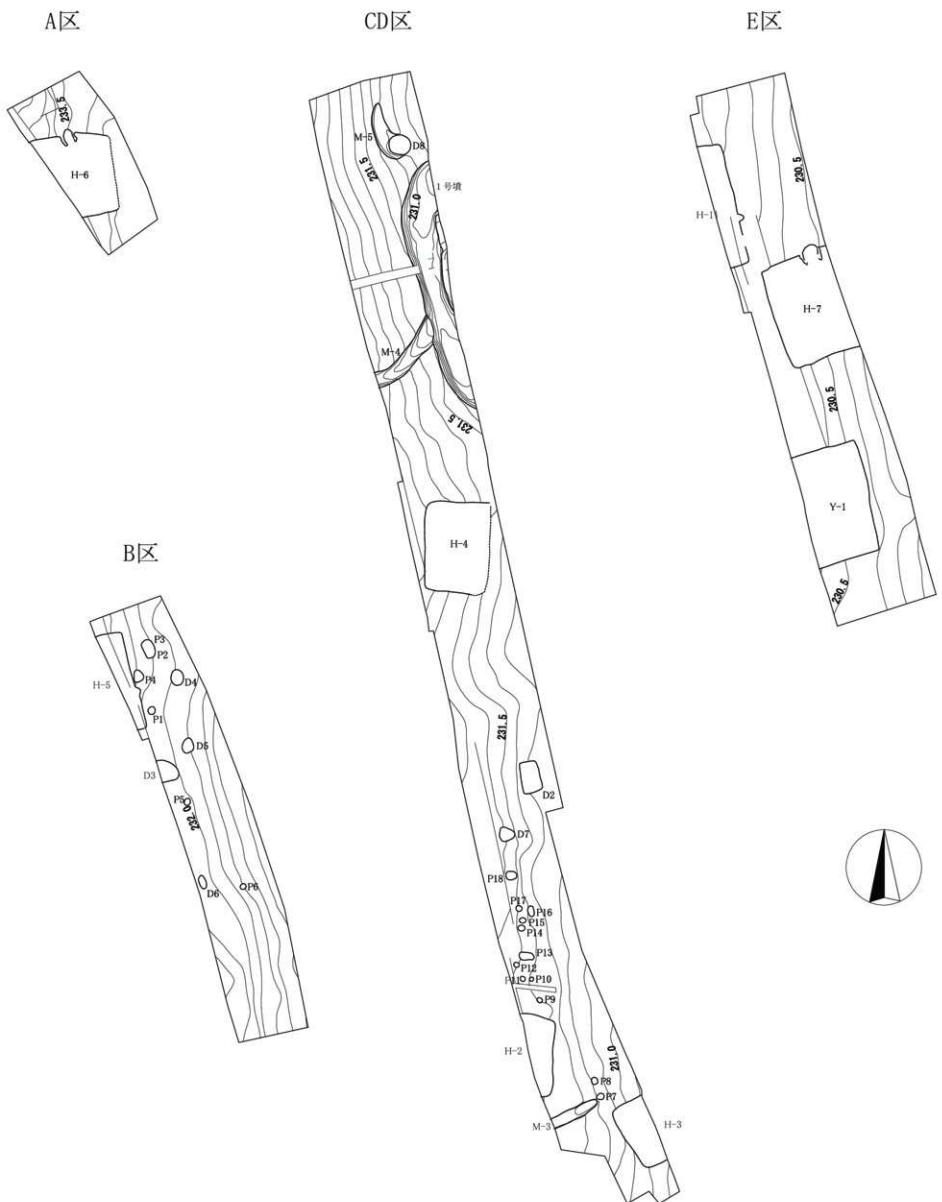


第3図 グリッド設定図(1)

S=1:2500



第4図 グリッド設定図（2）・全体図（1）



第5図 全体図 (2)

0 1:200 10m

第4章 遺構と遺物

第1節 概要

(1) 縄文時代

前期中葉～後葉・中期中葉・後期前葉の土器片、及び同時期の所産と推定される石器が少量出土しているが、遺構の検出には至っていない。

(2) 弥生時代

中期後葉（栗林式期並行）の堅穴住居址が1軒検出された。遺構として確認されたのは、この1軒のみであるが、調査区全体から栗林式期～樽式期並行の土器片が一定量出土している。なお、今回試掘調査のみで、本調査を実施しなかった開発区域北半において、樽式期の所産と推定される堅穴住居址が確認されている。

(3) 古墳時代

古墳時代は本遺跡の中核をなす時期であり、堅穴住居址が7軒確認されている。H2号住居址が一番旧く5世紀前半、H6号住居が一番新しく6世紀後半、他の住居址は5世紀後半から6世紀前半の所産と考えられる。周辺一帯に5世紀から6世紀にかけて、継続的に集落が営まれていたと考えられる。なお、内斜口縁の坏等が出土している3号土坑は、報告の中では土坑としているが、堅穴住居址のプランを見落とし、その柱穴と貯蔵穴のみを検出している可能性も考えられる。

1号古墳は、調査区の制約により周囲の部分的調査にとどまった。そのため、全体の規模・形状、主体部の構造等不明な部分が多い。出土遺物は円筒埴輪が約10個体である。それらの出土遺物から、築造時期は5世紀終末から6世紀初頭と推定され、九十九川流域では最古級の古墳と考えられる。周辺は「国衙古墳群」と称されるほど古墳の多い地域である。1号古墳周辺以外からも、円筒埴輪片が少量出土しているが、遺構として確認されたのは本墳だけである。

(4) 古代

試掘調査の段階から、平安時代の所産と推定される須恵器片が少量出土しているが、遺構は確認されていない。

(5) 中世

中世では、非常に顕著なAs-B混土層硬化面が確認された。この硬化面は表土掘削の段階で、本調査を行った4区のいずれでも確認されている。しかし、時間的な制約があり全調査区の2面調査は不可能であったため、A区とCD区の一部のみ精査を行った。

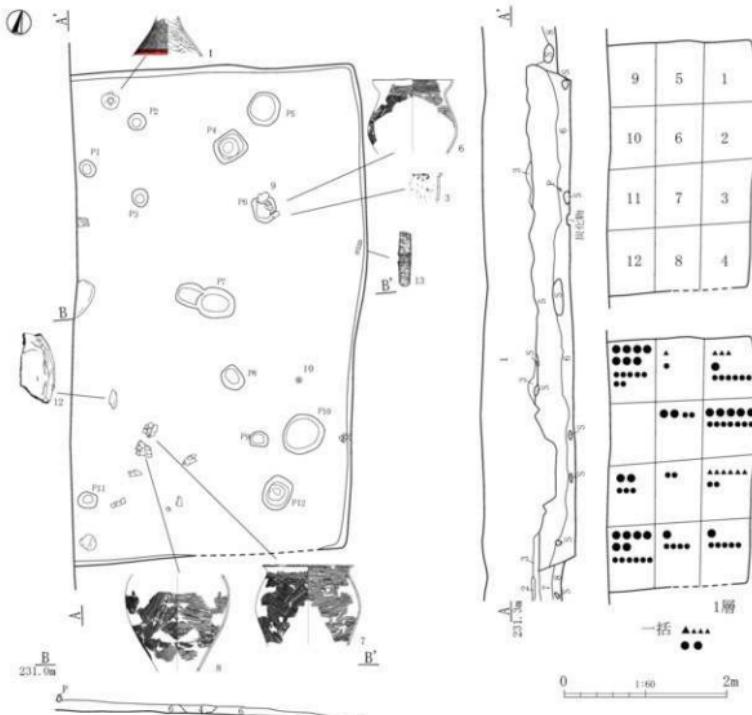
以下、遺構が検出された弥生時代・古墳時代・中世について詳述する。なお、出土遺物が無く時期決定が難しい溝・土坑・ピット等は、本遺跡の主体をなす古墳時代所産である可能性が高いと考え、第3節において実測図・観察表等により報告する。また、縄文時代・古代の遺物については、代表的なものを「遺構外出土遺物」とし第5節において報告する。

第2節 弥生時代

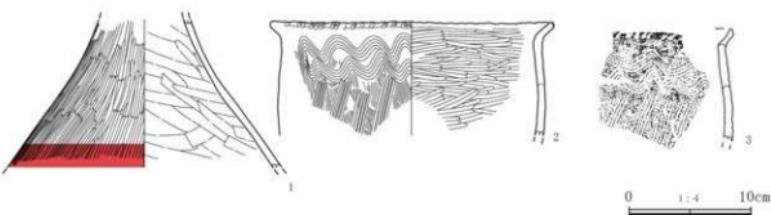
(1) 堅穴住居址

① Y1号住居址（第6・7・8図、第2表、PL1・8）

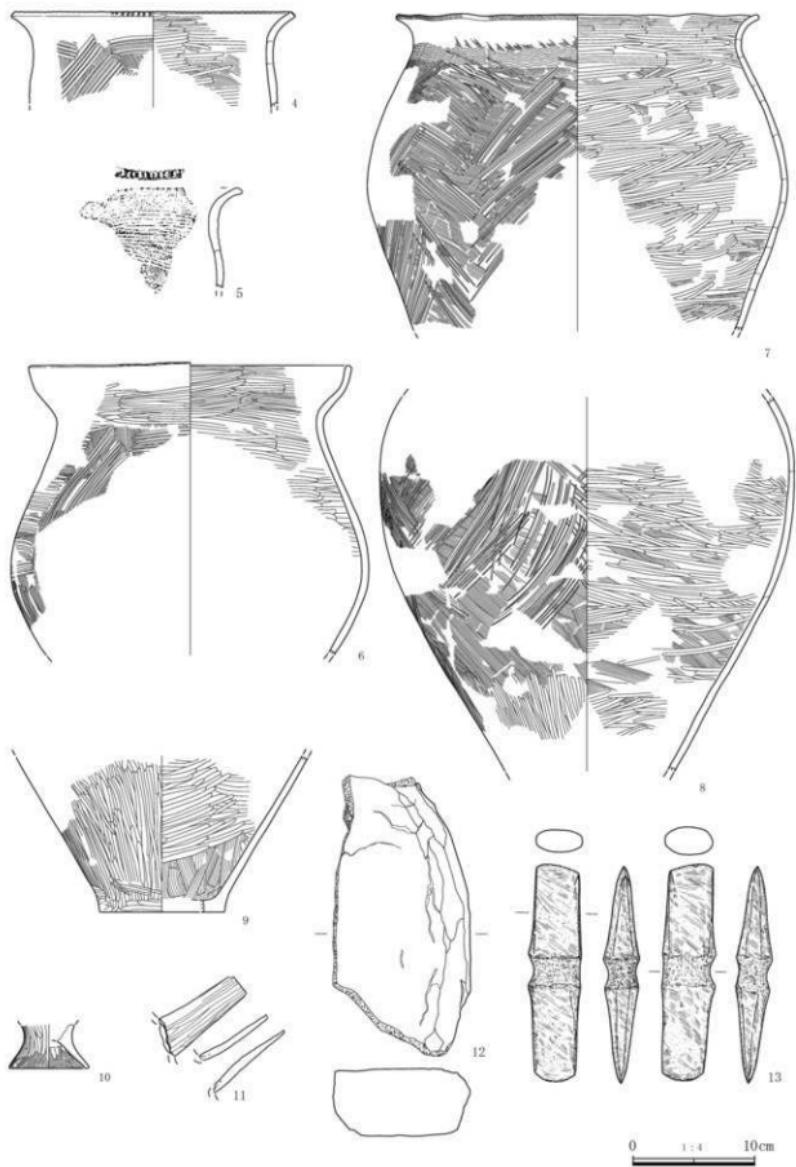
位置 E区南寄り、9F62グリッド他に位置する。 形状・特徴 全体を調査していないが、長方形と推定される。東側ほど後世の耕作等により遺存状況が不良であるが、プランは確認できた。東西3.60m（確認部分）×南北6.00m×深さ0.15m。 覆土 しまった黒褐色土を主体とする。床面付近は炭化材・炭化物を多く含み、焼失家屋の可能性が考えられる。 炉 P4付近に焼土が少量散在するが、炉址との断定は難しい。 遺物 羽状櫛描文・波状文を施した甕・壺系土器片が多い。東壁際床面直上より独鉛石状石器（縄文時代晩期を中心に作られた独鉛石と比較すると扁平であり、石材も弥生時代の磨製石斧に多用される輝緑岩であるため、独鉛石とは区別をし「独鉛石状石器」と呼称しておく）が出土している。 時期 中期後葉栗林II式期並行と考えられる。



第6図 Y1号住居址



第7図 Y1号住居址出土遺物（1）



第8图 Y1号住居址出土遗物（2）

遺物名目		品種	出土位置	状態(g)	目録番号	分類	成・解説
1	手斧上部 石	石	直進 - 直進 - 直進 - 直進 -	1.5g 1.5g 1.5g 1.5g	H11-1 H11-2 H11-3 H11-4	工具 石器	外函：頭部へ鋸歯状に磨擦跡。下刃に剥離あり。 内函：頭部へ鋸歯状に磨擦跡。下刃に剥離あり。
2	手斧 石	石	直進 H11-1層 直進 - 直進 - 直進 -	0.9g 0.8g 0.8g 0.8g	H11-5 H11-6 H11-7 H11-8	工具 石器	外函：白褐色灰岩。刃部へ鋸歯状で、頭部上辺剥離状況。頭部の剥離大きさ。 内函：白褐色灰岩。刃部へ鋸歯状で、頭部上辺剥離状況。
3	手斧上部 石	石	直進 - 直進 - 直進 - 直進 -	0.22g 0.22g 0.22g 0.22g	H11-9 H11-10 H11-11 H11-12	工具 石器	外函：白褐色灰岩。刃部へ鋸歯状で、頭部上辺剥離状況。頭部の剥離大きさ。 内函：白褐色灰岩。刃部へ鋸歯状で、頭部上辺剥離状況。
4	手斧上部 石	石	直進 H11-1層 直進 - 直進 -	0.22g 0.22g 0.22g	H11-13 H11-14 H11-15	工具 石器	外函：白褐色灰岩。刃部へ鋸歯状で、頭部上辺剥離状況。頭部の剥離大きさ。 内函：白褐色灰岩。刃部へ鋸歯状で、頭部上辺剥離状況。
5	手斧上部 石	石	直進 - 直進 - 直進 -	0.22g 0.22g 0.22g	H11-16 H11-17 H11-18	工具 石器	外函：白褐色灰岩。刃部へ鋸歯状で、頭部上辺剥離状況。頭部の剥離大きさ。 内函：白褐色灰岩。刃部へ鋸歯状で、頭部上辺剥離状況。
6	手斧上部 石	石	直進 H11-1層 直進 - 直進 -	0.26g 0.26g 0.26g	H11-19 H11-20 H11-21	工具 石器	外函：白褐色灰岩。刃部へ鋸歯状で、頭部上辺剥離状況。頭部の剥離大きさ。 内函：白褐色灰岩。刃部へ鋸歯状で、頭部上辺剥離状況。
7	手斧上部 石	石	直進 H11-1層 直進 H11-2層 直進 -	0.26g 0.26g 0.26g	H11-22 H11-23 H11-24	工具 石器	外函：白褐色灰岩。刃部へ鋸歯状で、頭部上辺剥離状況。頭部の剥離大きさ。 内函：白褐色灰岩。刃部へ鋸歯状で、頭部上辺剥離状況。
8	手斧上部 石	石	直進 H11-1層 直進 - 直進 -	0.26g 0.26g 0.26g	H11-25 H11-26 H11-27	工具 石器	外函：白褐色灰岩。刃部へ鋸歯状で、頭部上辺剥離状況。頭部の剥離大きさ。 内函：白褐色灰岩。刃部へ鋸歯状で、頭部上辺剥離状況。
9	手斧上部 石	石	直進 H11-1層 直進 - 直進 -	0.26g 0.26g 0.26g	H11-28 H11-29 H11-30	工具 石器	外函：白褐色灰岩。刃部へ鋸歯状で、頭部上辺剥離状況。頭部の剥離大きさ。 内函：白褐色灰岩。刃部へ鋸歯状で、頭部上辺剥離状況。
10	手斧上部 石	石	直進 - 直進 -	0.3g 0.3g	H11-31 H11-32	工具 石器	外函：白褐色灰岩。刃部へ鋸歯状で、頭部上辺剥離状況。頭部の剥離大きさ。 内函：白褐色灰岩。刃部へ鋸歯状で、頭部上辺剥離状況。
11	手斧上部 石	石	直進 - 直進 - 直進 -	0.3g 0.3g 0.3g	H11-33 H11-34 H11-35	工具 石器	外函：白褐色灰岩。刃部へ鋸歯状で、頭部上辺剥離状況。頭部の剥離大きさ。
12	石器 石	石	直進 - 直進 -	0.3g 0.3g	H11-36 H11-37	工具 石器	外函：白褐色灰岩。刃部へ鋸歯状で、頭部上辺剥離状況。頭部の剥離大きさ。
13	石器 石	石	直進 - 直進 -	0.3g 0.3g	H11-38 H11-39	工具 石器	外函：白褐色灰岩。刃部へ鋸歯状で、頭部上辺剥離状況。頭部の剥離大きさ。
							外函：白褐色灰岩。刃部へ鋸歯状で、頭部上辺剥離状況。頭部の剥離大きさ。

第2表 Y1号住居址出土遺物観察表

第3節 古墳時代

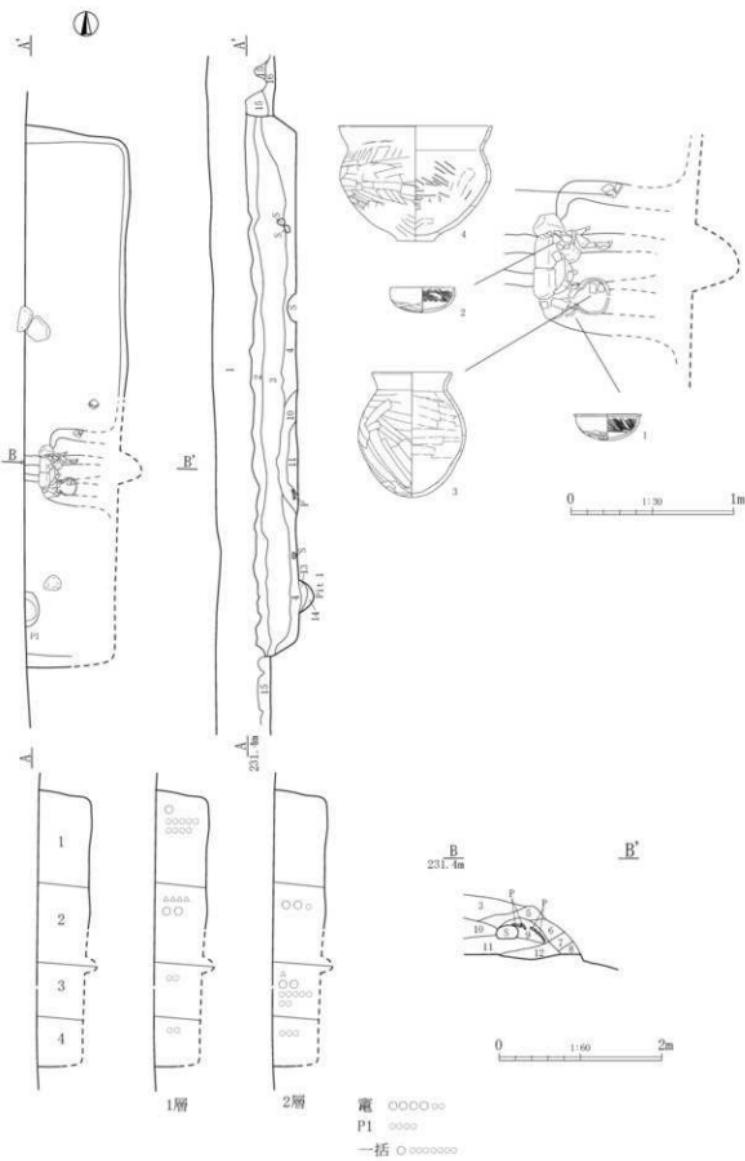
(1) 穴式住居址

① H1号住居址（第9・10・11図、第3表、PL.2・9）

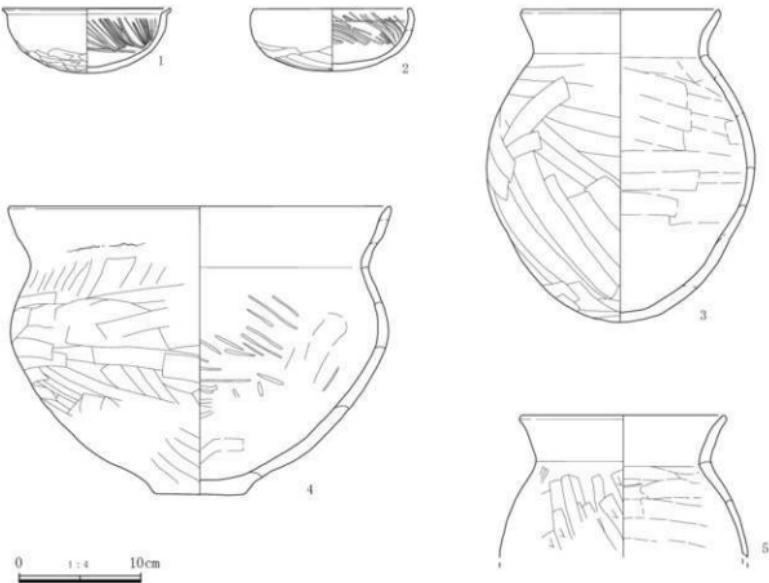
位置 E区北寄り、9 F 20 グリッド他に位置する。 形状・特徴 住居東壁付近の一部を調査したのみであるが、方形と考えられる。東西1.25 m（確認部分）×南北6.65 m×深さ0.30 m。 覆土 しまった黒褐色土を主体とする。 カマド 東壁やや南寄りで検出された。焚き口には鳥居状石組が確認された。 遺物 カマド内及びカマド周辺からの出土量が多い。 時期 5世紀後半と考えられる。

番号	番号	色調	L.M.L	形状	鉄人物								備考	
					B.P.	B.R.	V.P.	A.x	A.y	B.x	C.x	D.y	地	
1	頭部丸土	黄褐色	○	△	●	●	●	○	○	○	●	●	●	中
2	頭部丸土	黄褐色	○	△	●	●	●	○	○	○	●	●	●	中
3	頭部丸土	黄褐色	○	△	●	●	●	○	○	○	●	●	●	中
4	頭部丸土	黄褐色	○	△	●	●	●	○	○	○	●	●	●	中
5	頭部丸土	黄褐色	○	△	●	●	●	○	○	○	●	●	●	中
6	頭部丸土	黄褐色	○	△	●	●	●	○	○	○	●	●	●	中
7	頭部丸土	黄褐色	○	△	●	●	●	○	○	○	●	●	●	中
8	頭部丸土	黄褐色	○	△	●	●	●	○	○	○	●	●	●	中
9	頭部丸土	黄褐色	○	△	●	●	●	○	○	○	●	●	●	中
10	頭部丸土	黄褐色	○	△	●	●	●	○	○	○	●	●	●	中
11	頭部丸土	黄褐色	○	△	●	●	●	○	○	○	●	●	●	中
12	二段式頭部丸土	黄褐色	○	△	●	●	●	○	○	○	●	●	●	中
13	頭部丸土	黄褐色	○	△	●	●	●	○	○	○	●	●	●	中
14	頭部丸土	黄褐色	○	△	●	●	●	○	○	○	●	●	●	中
15	頭部丸土	黄褐色	○	△	●	●	●	○	○	○	●	●	●	中
16	二段式頭部丸土	黄褐色	○	△	●	●	●	○	○	○	●	●	●	中

第9図 H1号住居址（1）



第10図 H1号住居址（2）



第11図 H1号住居址出土遺物

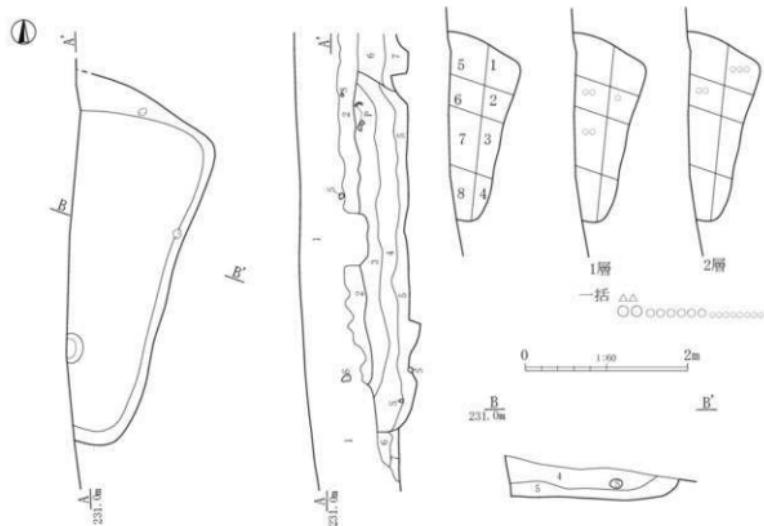
位置 (遺物番号)	器種	出土位置	底面(cm)	内側成(①平裏)②胎土③埋存	外側成(④漆表面)⑤白色⑥褐色 ⑦青色⑧灰色⑨灰色⑩褐色	成・形状(左の特徴)
1 土26 炉	No.16.一鍋	口沿部 近底 底面 底径 5.3	13.8	①平裏 ②胎土 ③埋存	④漆表面 ⑤白色 ⑥褐色 ⑦青色 ⑧灰色 ⑨灰色 ⑩褐色	外面 口沿部漆面で、体面～底面削り。 内面 口縁部漆面で、体面～底面削り。
2 土27 炉	No.13	口沿 近底 底面 5.1	12.9	①平裏 ②漆表面 ③白色 ④褐色 ⑤青色 ⑥灰色 ⑦灰色 ⑧灰色 ⑨灰色 ⑩褐色	外面 口沿部漆面で、体面～底面削り。 内面 体面削り廻らし後、口沿部に模様削り。	
3 土28 甕	No.5.5.甕	口沿 近底 底面 25.5	16.0	①平裏 ②胎土 ③埋存	④漆表面 ⑤白色 ⑥褐色 ⑦青色 ⑧灰色 ⑨灰色 ⑩褐色	外面 口縁部～底部模様削り、側面～底面削り。 内面 口縁部～底部模様削り、側面～底面削り。
4 土29 甕	No.2.No.6.No.5.No.4. No.9.No.10.No.11	口沿 近底 底面 H-T8・10灰土層 H-T8・13灰土層 H-T8・14灰土層	31.0 7.4 23.6	①平裏 ②漆表面 ③白色 ④褐色 ⑤青色 ⑥灰色 ⑦灰色 ⑧灰色 ⑨灰色 ⑩褐色	外面 口縁部～底部模様削り、側面削り。 内面 ④漆表面～底面削り	
5 土30 甕	No.3.甕	口沿 近底 底面 (11.7)	17.0	①平裏 ②胎土 ③埋存	④漆表面 ⑤白色 ⑥褐色 ⑦青色 ⑧灰色 ⑨灰色 ⑩褐色	外面 口縁部～底部模様削り、側面削り～底面削り。 内面 口縁部～底部模様削り、側面削り～底面削り。

第3表 H1号住居址出土遺物観察表

②H2号住居址（第12・13図、第4表、PL2・9）

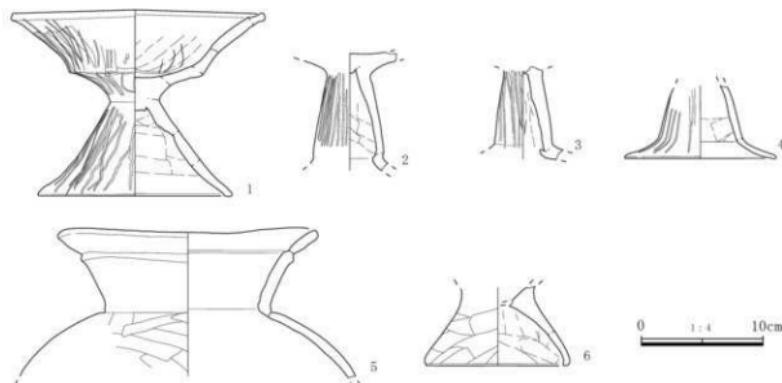
位置 C D区南寄り、8 E 68 グリッド他に位置する。 形状・特徴 一部の調査であるが、方形基調であると推定される。東西 1.95 m (確認部分) ×南北 4.10 m ×深さ 0.45 m。 覆土 黒褐色土を主体とする。 炉 出土遺物から判断すると、炉を有する可能性が高いと考えられるが検出されていない。

遺物 表土掘削時及びプラン確認時には一定量の遺物が出土したが、分層 16 分割法で取り上げた覆土下位での出土は少量である。台付甕台部が出土している。 時期 5世紀前半と考えられる。



層序	層名	色調	しまり	粒性	断面図					地質	
					R.P	R.B	Y.P	A.s-A	A.s-B	A.s-C	
1	褐色色土	(10YR4/1)	△	△	●	●	○	○	●	●	現代の耕作土
2	黄褐色土	(10YR3/1)	△	△	●	●	×	●	●	●	8-10cmの腐土
3	褐褐色土	(10YR2/2)	△	△	●	●	×	●	●	●	8-10cmの腐土
4	褐褐色土	(10YR2/3)	△	△	●	●	×	●	●	●	8-10cmの腐土
5	褐褐色土	(10YR3/2)	△	△	●	●	○	●	●	●	8-10cmの腐土
6	灰褐色土	(10YR3/3)	○	○	○	●	●	●	●	●	樹木
7	灰褐色色土	(10YR4/3)	○	○	○	○	●	●	●	●	樹木

第12図 H2号住居址



第13図 H2号住居址出土遺物

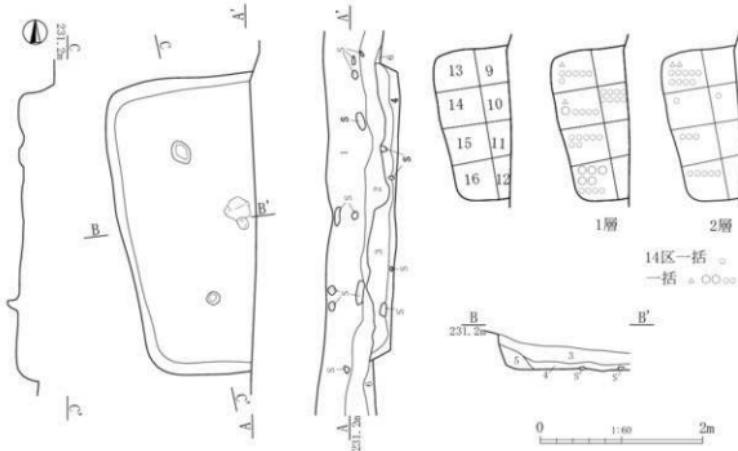
遺物番号	器種	出土位置	法面(m)	下地層	色調	刮削土(4種)	外観	成・形状・特徴
1	土鍋 高井	一括	口径 底径 高さ 直径	(26.5) (16.0) (15.2) (39.4)	口部 内面 側面 底面	青白 青白 青白 青白	外面 外面 外面 外面	口部張り直で、底部削面や後廢り、脚部崩れ。 底部張り直で、底部削面で後、不整方向の複数の巻き、脚部崩れ。
2	土鍋 高井	一括	口径 底径 高さ 直径	(26.5) (16.0) (15.2) (39.4)	口部 内面 側面 底面	青白 青白 青白 青白	外面 外面 外面 外面	片面部削り、脚部崩れ巻き。
3	土鍋 高井	一括	口径 底径 高さ 直径	(26.5) (16.0) (15.2) (37.3)	口部 内面 側面 底面	青白 青白 青白 青白	外面 外面 外面 外面	脚部巻き。 脚部巻き。
4	土鍋 高井	一括	口径 底径 高さ 直径	(26.5) (16.0) (15.2) (39.4)	口部 内面 側面 底面	青白 青白 青白 青白	外面 外面 外面 外面	脚部巻き。 脚部巻き。
5	土鍋 他	13区-1 一括	口径 底径 高さ 直径	(21.4) (12.4) (12.2)	口部 内面 側面 底面	青白 青白 青白 青白	外面 外面 外面 外面	脚部後、脚部巻き。 脚部中後～下段脚部。
6	土鍋 台付壺	一括	口径 底径 高さ 直径	(21.4) (12.4) (9.6)	口部 内面 側面 底面	青白 青白 青白 青白	外面 外面 外面 外面	脚部巻り。 脚部巻り。

第4表 H2号住居址出土遺物観察表

③H3号住居址（第14図、PL 2）

位置 CD区南端、8 F 70 グリッド他に位置する。 形状・特徴 全体を調査していないが、方形基調と推定される。東西 1.85 m（確認部分）×南北 3.70 m ×深さ 0.40 m。 覆土 黒褐色土を主体とする。

カマド 検出されていない。 遺物 西壁付近を中心に一定量の遺物が出土しているが、小破片が多いため図化していない。 時期 5世紀後半から6世紀前半と考えられる。

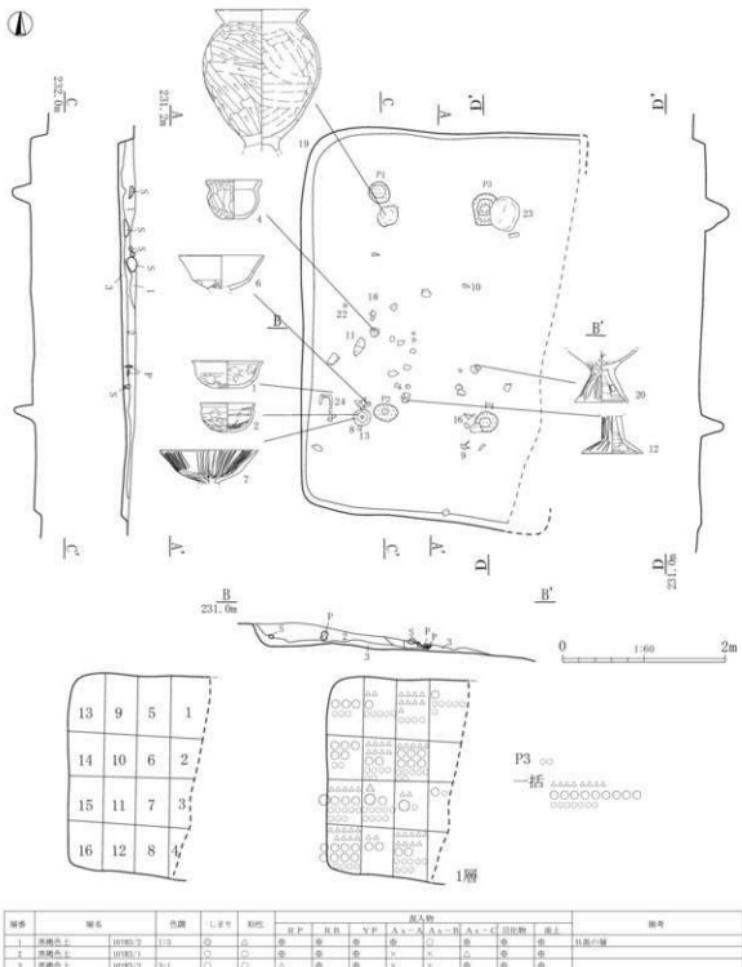


第14図 H3号住居址

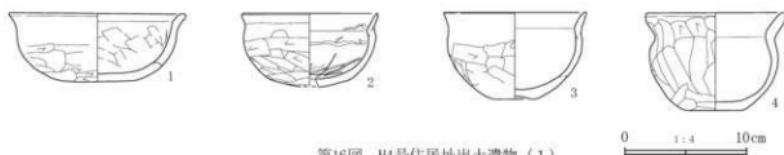
④H4号住居址（第15・16・17図、第5表、PL 3・10・11）

位置 CD区中央付近、7 E 97 グリッド他に位置する。 形状・特徴 後世の擾乱のため東側のプランが不明である。柱穴の可能性が考えられるビットが4基検出されており、その位置から長方形と考えられる。東西 3.35 m（遺存部分）×南北 4.90 m ×深さ 0.25 m。 覆土 黒褐色土を主体とする。 炉 出土遺物から判断すると、炉を有する可能性が高いと考えられるが検出されていない。 遺物 出土量は全体に多い。鉄鋤、紡錘車が出土している。また、台付甕も複数個体出土している。 時期 5世紀半ばと考えられる。

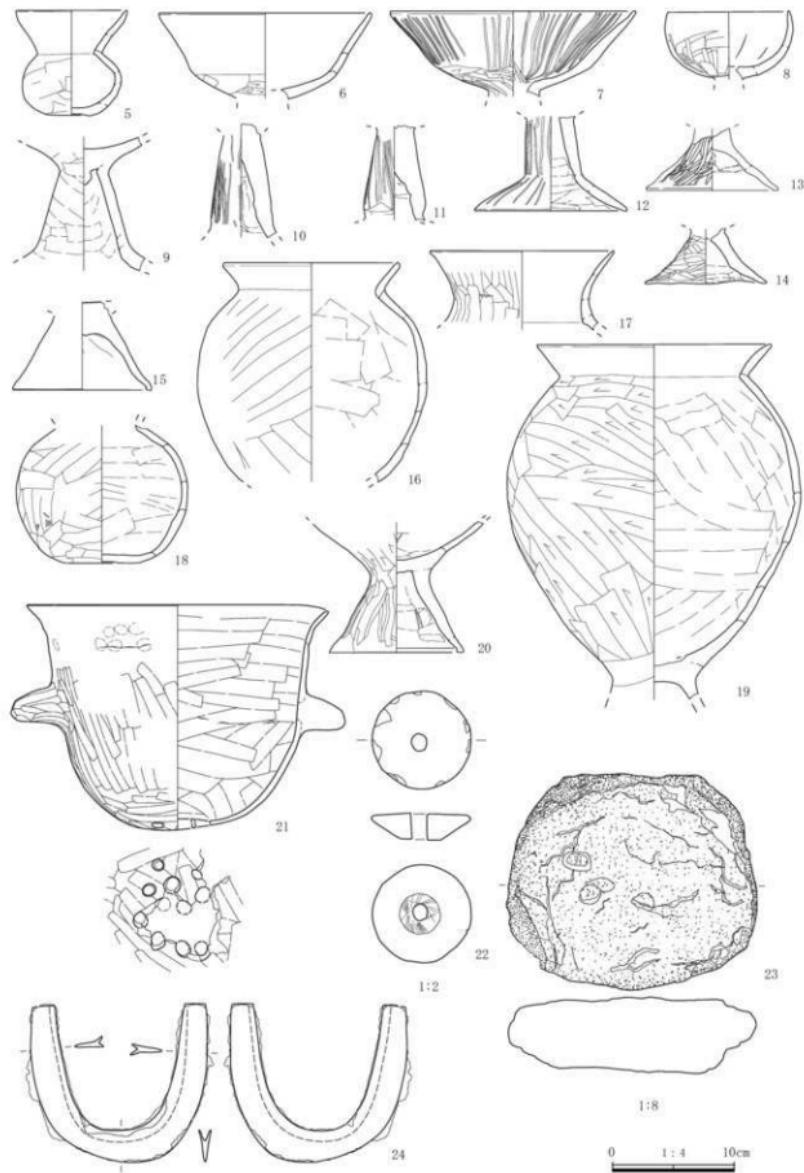
層番	層名	色調	寸法(m)	粘性	層入物								備考	
					H.P.	W.H.	V.P.	A.s.	A.l.	A.s.-l.	C.s.	沈化物	廃土	
1	黒褐色土	(10831)	11.2	△	△	全	全	△	△	△	△	△	△	△-上人頭へ人頭人の頭と会合
2	黒褐色土	(10832)	21.1	△	△	全	全	△	△	△	△	△	△	△-2回の層上
3	黒褐色土	(10833)	21.0	△	△	全	全	△	△	△	△	△	△	△-2回の層上
4	黒褐色土	(10834)	21.0	△	△	全	全	△	△	△	△	△	△	△-2回の層上
5	黒褐色土	(10835)	21.3	△	△	全	全	△	△	△	△	△	△	△-2回の層上
6	黒褐色土	(10836)	40.4	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△



第15図 H4号住居址



第16図 H4号住居址出土遺物（1）



第17圖 H4號住居址出土遺物（2）

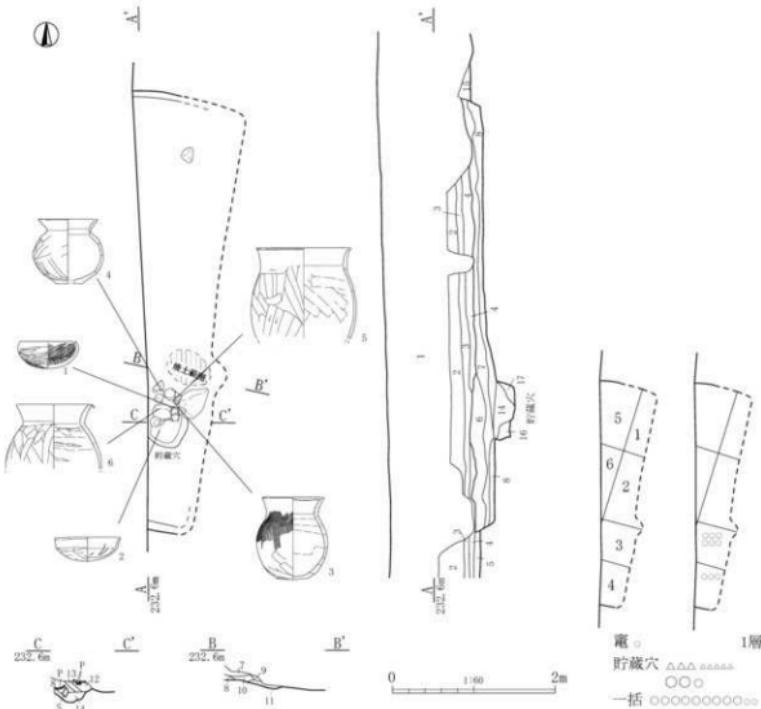
遺物番号	部 類	出土位置	北緯(度)	北緯(分)	北緯(秒)	東経(度)	東経(分)	東経(秒)	地質・地形目次法の特徴
1 牙	Ne2.11(1)層 125cm	内壁 底盤 蓋	36.4 115.4 115.7	22.1 5.6 5.6	5.6 5.6 5.6	139.6 139.6 139.6	44.4 44.4 44.4	44.4 44.4 44.4	内面 口沿部破壊で、底盤へ延び裂け。内面 の底盤破壊で、底盤へ延び裂け。
2 土器	一柄 片	内壁 底盤 蓋	36.0 115.0 115.0	22.0 5.6 5.6	5.6 5.6 5.6	139.6 139.6 139.6	44.4 44.4 44.4	44.4 44.4 44.4	内面 口縁部～底盤上部破壊で、底盤中央へ底盤剥離。内面 の底盤破壊で、底盤へ延び裂け。
3 土器	片	内壁 底盤 蓋	36.0 115.0 115.0	22.0 5.6 5.6	5.6 5.6 5.6	139.6 139.6 139.6	44.4 44.4 44.4	44.4 44.4 44.4	内面 口縁部破壊で、底盤剥離。内面 の底盤破壊で、底盤へ延び裂け。
4 土器	小型 片	内壁 底盤 蓋	36.0 115.0 115.0	22.0 5.6 5.6	5.6 5.6 5.6	139.6 139.6 139.6	44.4 44.4 44.4	44.4 44.4 44.4	内面 口縁部破壊で、以下無隙。内面 の底盤破壊で、以下無隙。
5 土器	小型 片	内壁 底盤 蓋	36.0 115.0 115.0	22.0 5.6 5.6	5.6 5.6 5.6	139.6 139.6 139.6	44.4 44.4 44.4	44.4 44.4 44.4	内面 口縁部～底盤側で、側面剥離基盤剥離。内面 の底盤破壊で、側面剥離基盤剥離。
6 土器	高井 高井	内壁 底盤 蓋	36.0 115.0 115.0 115.0	22.0 5.6 5.6 5.6	5.6 5.6 5.6 5.6	139.6 139.6 139.6 139.6	44.4 44.4 44.4 44.4	44.4 44.4 44.4 44.4	内面 口縁上部破壊で、下部無隙。内面 の底盤破壊で、底盤側で、側面剥離。
7 土器	片	内壁 底盤 蓋	36.0 115.0 115.0	22.0 5.6 5.6	5.6 5.6 5.6	139.6 139.6 139.6	44.4 44.4 44.4	44.4 44.4 44.4	内面 口縁部～底盤側で、側面剥離基盤剥離。内面 の底盤破壊で、側面剥離。
8 土器	高井 高井	内壁 底盤 蓋	36.0 115.0 115.0 115.0	22.0 5.6 5.6 5.6	5.6 5.6 5.6 5.6	139.6 139.6 139.6 139.6	44.4 44.4 44.4 44.4	44.4 44.4 44.4 44.4	内面 口縁上部破壊で、下部無隙。内面 の底盤破壊で、底盤側で、側面剥離。
9 土器	高井 高井	内壁 底盤 蓋	36.0 115.0 115.0	22.0 5.6 5.6	5.6 5.6 5.6	139.6 139.6 139.6	44.4 44.4 44.4	44.4 44.4 44.4	内面 口縁部～底盤側で、側面剥離。内面 の底盤破壊で、底盤側で、側面剥離。
10 土器	高井 高井	内壁 底盤 蓋	36.0 115.0 115.0	22.0 5.6 5.6	5.6 5.6 5.6	139.6 139.6 139.6	44.4 44.4 44.4	44.4 44.4 44.4	内面 口縁部～底盤側で、底盤側で、側面剥離。
11 土器	高井 高井	内壁 底盤 蓋	36.0 115.0 115.0	22.0 5.6 5.6	5.6 5.6 5.6	139.6 139.6 139.6	44.4 44.4 44.4	44.4 44.4 44.4	内面 口縁部～底盤側で、底盤側で、側面剥離。
12 土器	高井 高井	内壁 底盤 蓋	36.0 115.0 115.0	22.0 5.6 5.6	5.6 5.6 5.6	139.6 139.6 139.6	44.4 44.4 44.4	44.4 44.4 44.4	内面 口縁部～底盤側で、側面剥離。
13 土器	高井 高井	内壁 底盤 蓋	36.0 115.0 115.0	22.0 5.6 5.6	5.6 5.6 5.6	139.6 139.6 139.6	44.4 44.4 44.4	44.4 44.4 44.4	内面 口縁部～底盤側で、側面剥離。
14 土器	高井 高井	内壁 底盤 蓋	36.0 115.0 115.0	22.0 5.6 5.6	5.6 5.6 5.6	139.6 139.6 139.6	44.4 44.4 44.4	44.4 44.4 44.4	内面 口縁部～底盤側で、側面剥離。
15 土器	高井 高井	内壁 底盤 蓋	36.0 115.0 115.0	22.0 5.6 5.6	5.6 5.6 5.6	139.6 139.6 139.6	44.4 44.4 44.4	44.4 44.4 44.4	内面 口縁部～底盤側で、側面剥離。
16 土器	Ne2.3.36.30 等	内壁 底盤 蓋	36.0 115.0 115.0 115.0	22.0 5.6 5.6 5.6	5.6 5.6 5.6 5.6	139.6 139.6 139.6 139.6	44.4 44.4 44.4 44.4	44.4 44.4 44.4 44.4	内面 口縁部～底盤側で、側面剥離。内面 の底盤破壊で、側面剥離。
17 土器	蓋	内壁 底盤 蓋	36.0 115.0 115.0	22.0 5.6 5.6	5.6 5.6 5.6	139.6 139.6 139.6	44.4 44.4 44.4	44.4 44.4 44.4	内面 口縁部～底盤側で、側面～側面剥離。内面 の底盤破壊で、側面剥離。
18 土器	蓋	内壁 底盤 蓋	36.0 115.0 115.0 115.0	22.0 5.6 5.6 5.6	5.6 5.6 5.6 5.6	139.6 139.6 139.6 139.6	44.4 44.4 44.4 44.4	44.4 44.4 44.4 44.4	内面 口縁部～底盤側で、下部～側面剥離。内面 の底盤破壊で、側面剥離。
19 土器 骨材	骨材 骨材	内壁 底盤 蓋	36.0 115.0 115.0 115.0	22.0 5.6 5.6 5.6	5.6 5.6 5.6 5.6	139.6 139.6 139.6 139.6	44.4 44.4 44.4 44.4	44.4 44.4 44.4 44.4	内面 口縁部破壊で、側面～側面剥離。内面 の底盤破壊で、側面剥離。
20 土器	骨材	内壁 底盤 蓋	36.0 115.0 115.0	22.0 5.6 5.6	5.6 5.6 5.6	139.6 139.6 139.6	44.4 44.4 44.4	44.4 44.4 44.4	内面 口縁下部。外縁とも底盤基盤剥離所。
21 土器	蓋	内壁 底盤 蓋	36.0 115.0 115.0	22.0 5.6 5.6	5.6 5.6 5.6	139.6 139.6 139.6	44.4 44.4 44.4	44.4 44.4 44.4	内面 口縁部破壊で、側面～底盤剥離。側面中央に把手を黏付。近縁多孔式。内面 口縁部破壊で、側面～底盤剥離。
22 石器 骨材	骨材 骨材	内壁 底盤 蓋	36.0 115.0 115.0 115.0	22.0 5.6 5.6 5.6	5.6 5.6 5.6 5.6	139.6 139.6 139.6 139.6	44.4 44.4 44.4 44.4	44.4 44.4 44.4 44.4	内面 口縁部破壊で、側面～底盤剥離。
23 石器	骨材	内壁 底盤 蓋	36.0 115.0 115.0	22.0 5.6 5.6	5.6 5.6 5.6	139.6 139.6 139.6	44.4 44.4 44.4	44.4 44.4 44.4	内面 口縁部破壊で、側面～底盤剥離。
24 骨材 骨材	骨材 骨材	内壁 底盤 蓋	36.0 115.0 115.0	22.0 5.6 5.6	5.6 5.6 5.6	139.6 139.6 139.6	44.4 44.4 44.4	44.4 44.4 44.4	内面 口縁部破壊で、側面～底盤剥離。

第5表 田4号住居址出土遺物観察表

⑤H5号住居址（第18・19図、第6表、PL.4-11）

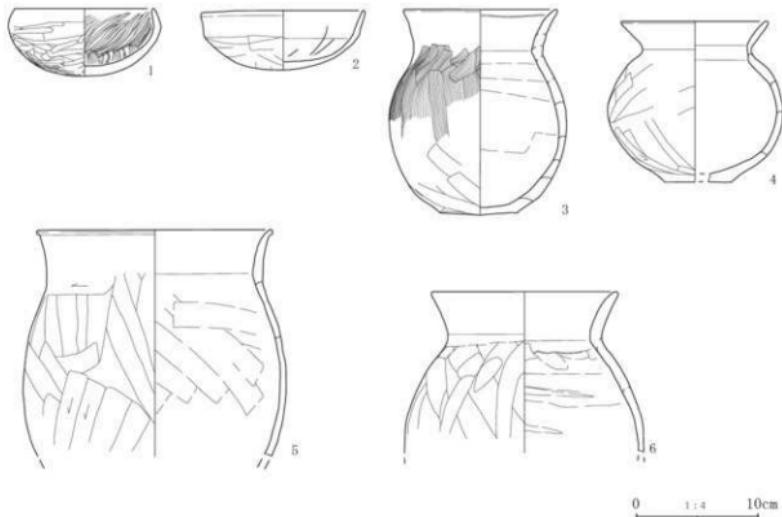
位置 B区北寄り、6 E 70 グリッド他に位置する。 形状・特徴 住居東壁付近の一部を調査したのみであるが、方形と考えられる。東西 1.15 m（確認部分における推定値）×南北 5.40 m ×深さ 0.15 m。

覆土 黒褐色土を主体とする。 カマド 東壁やや南寄りに焼土が集中する部分があり、カマドの可能性が高い。遺存状況が不良で詳細は不明である。 遺物 焼土集中部に南接する土坑が貯蔵穴と考えられる。遺物の大部分は貯蔵穴から出土している。 時期 6世紀前半～半ばと考えられる。



番号	層名	色調	L.S.N	特徴	組入物								備考
					H.P	H.H	V.P	A.s-A	A.s-B	A.s-C	田代物	土	
1	黒褐色土	10(BR)1	○	赤	□	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	炭化小鉢
2	黒褐色土	10(BR)1.1	○	赤	△	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤
3	黒褐色土	10(BR)2	△	赤	△	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤
4	黒褐色土	10(BR)2.1	△	赤	△	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤
5	黒褐色土	10(BR)2.2	△	赤	△	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤
6	黒褐色土	10(BR)2.3	○-△	赤	○	△	△	△	×	×	△	赤	赤
7	黒褐色土	10(BR)2.7	○	赤	○	△	△	△	△	△	△	赤	赤
8	黒褐色土	10(BR)3.1	○	赤	○	△	△	△	△	△	△	赤	赤
9	黒褐色土	10(BR)3.2	○	赤	○	△	△	△	△	△	△	赤	赤
10	黒褐色土	10(BR)3.3	○	赤	○	△	△	△	△	△	△	赤	赤
11	黒褐色土	10(BR)3.4	○	赤	○	△	△	△	△	△	△	赤	赤
12	黒褐色土	10(BR)3.5	○	赤	○	△	△	△	△	△	△	赤	赤
13	黒褐色土	10(BR)3.6	○	赤	○	△	△	△	△	△	△	赤	赤
14	黒褐色土	10(BR)3.7	○	赤	○	△	△	△	△	△	△	赤	赤
15	黒褐色土	10(BR)3.8	○	赤	○	△	△	△	△	△	△	赤	赤
16	黒褐色土	10(BR)3.9	○	赤	○	△	△	△	△	△	△	赤	赤
17	黒褐色土	10(BR)3.10	○	赤	○	△	△	△	△	△	△	赤	赤

第18図 H5号住居址



第19図 H5号居住址出土遺物

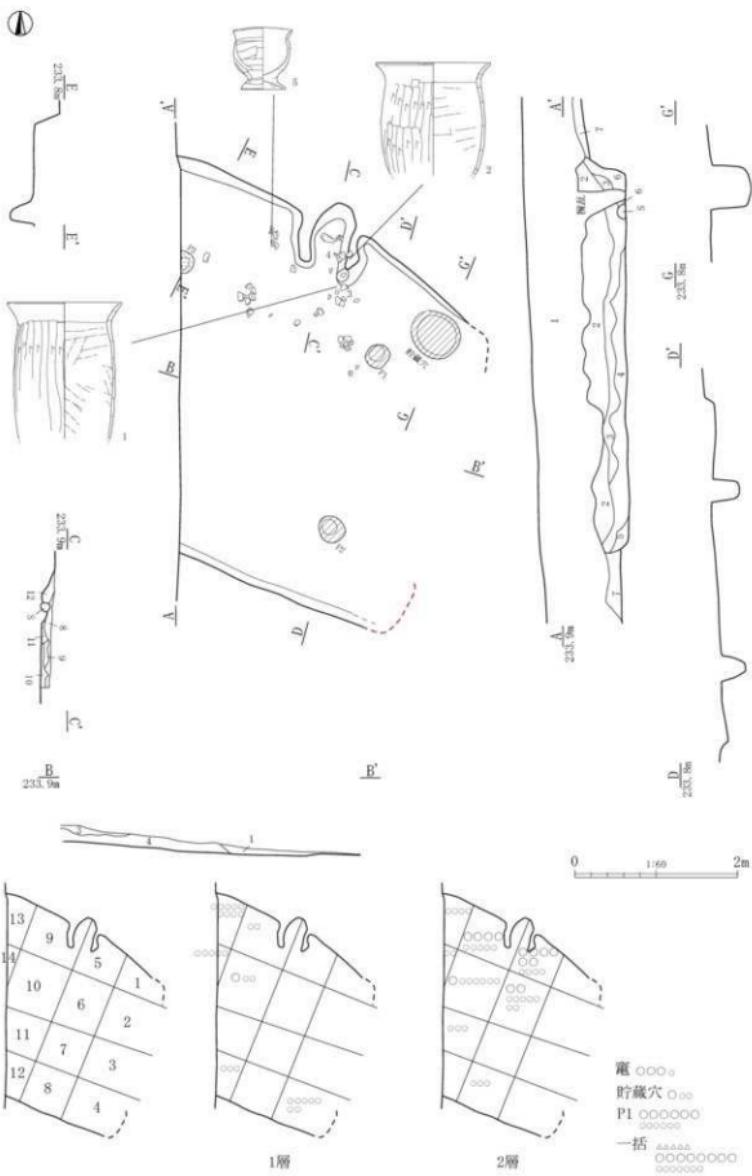
0 1:4 10cm

遺物番号	器種	出土位置	①地底 ②色調 ③地土 ④堆存	成・焼形技法の特徴	
				外面	内面
1 片	Na3	口縁 1.1 直 縫 縫痕 L.S.	口縁 11.1 ①直縫 ②別色刷毛 ③褐色 外縫 11.2 ④直縫	口沿部直縫で、底部～近縁部削り残り、基に墨書き。 内縫 口縫部直縫で、底部～近縁部削り。	
2 土鍋 片	Nd1	口縁 13.4 直縫 縫痕 L.S.	口縁 13.4 ①普通 ②縫毛 ③褐色 ④直縫 縫痕 13.5	口沿部直縫で、底部～近縁部削り。 内縫 口縫部直縫で、底部～近縁部削り。	
3 土鍋 小型 片	Na12, Na21 沙-1-1 直 縫 縫痕 L.S.	口縁 12.6 ①普通 ②縫毛 ③褐色 ④直縫 縫痕 12.7 縫痕 12.8	口縫部 ②にL.S.褐色 ③褐色 内縫 ①普通 ②に縫毛 ③褐色 ④直縫 縫痕 2.1	口沿部直縫で、側部鋸歯で、側部削り～斜位削り。 内縫 口沿部直縫で、側部鋸歯で、口縫部に1条(一部2条)の浅縫。	
4 土鍋 小型 片	Nd6, Nd11, Nd13 沙-6-1-1 直 縫 縫痕 L.S.	口縁 12.9 ①普通 ②にL.S.褐色 ③褐色 ④直縫 縫痕 12.0 縫痕 12.2	口縫部 ②にL.S.褐色 ③褐色 ④直縫 内縫 ①普通 ②に縫毛 ③褐色 ④直縫 縫痕 2.1	口沿部～側部直縫で、側部削り～斜位削りのため不明瞭。 内縫 口沿部～側部直縫で、側部削り～斜位削り。	
5 土鍋 直 縫 縫痕 L.S.	Na8-Na12, Na13 Na14-Na15, Na16 Na17-Na19, Na20 砂窯穴 D-1-1 直 縫 縫痕 G18, D	口縁 16.8 ①普通 ②褐色 ③褐色 ④直縫 縫痕 16.9 縫痕 17.0 縫痕 17.1 縫痕 17.2	口縫部 ②褐色 ③褐色 ④直縫 内縫 ①普通 ②褐色 ③褐色 ④直縫 縫痕 1/2	口縫部～側部直縫で、側部削り～斜位削り。 内縫 口縫部～側部直縫で、側部削り～斜位削り。	
6 土鍋 直 縫 縫痕 L.S.	Nd1, Nd6, Nd7 砂窯穴 D-1-1 直 縫 縫痕 G13, D	口縁 13.2 ①普通 ②にL.S.褐色 ③褐色 ④直縫 縫痕 13.3 縫痕 13.4	口縫部 ②にL.S.褐色 ③褐色 ④直縫 内縫 ①普通 ②褐色 ③褐色 ④直縫 縫痕 1/2	口縫部～側部直縫で、側部削り～斜位削り。 内縫 口縫部～側部直縫で、側部削り～斜位削り。	

第6表 H5号居住址出土遺物観察表

⑥H6号居住址（第20-21-22図、第7表、PL.4-12）

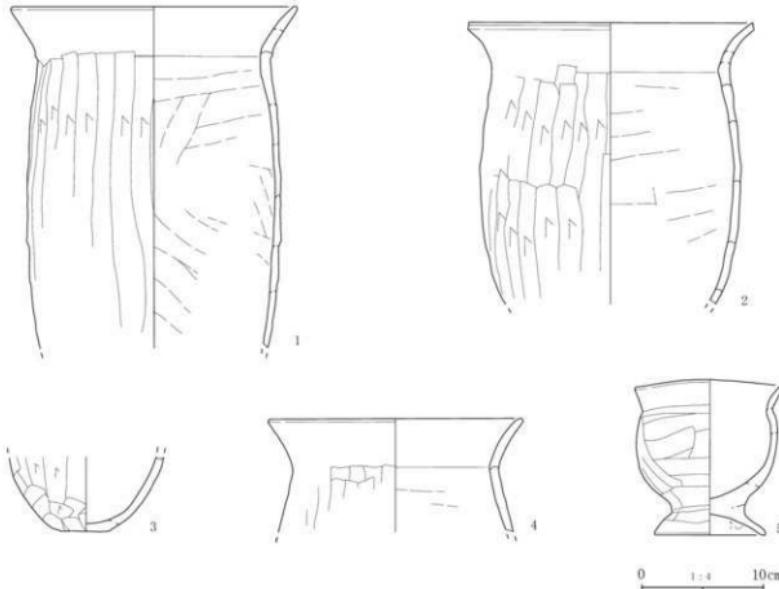
位置 A区、6 E00 グリッド他に位置する。 **形状・特徴** 住居の南西部分が調査区外であり、東壁付近も後世の攪乱のためプランが不明であるが、柱穴と想定される3基のピットより長方形と考えられる。東西 4.20 m（遺存部分）×南北 4.45 m × 深さ 0.40 m。 **覆土** 黒褐色土を主体とする。 **カマド** 北壁で検出された。遺存状況は不良である。燃焼部中央付近で被熱した棒状礫が出土しており、支脚と考えられる。 **遺物** カマド周辺からの出土が多い。器種は長胴甕が大部分である。 **時期** 6世紀後半と考えられる。



第20図 H6号住居址 (1)

編番	器名	色調	寸丈	形	取扱物							備考
					H.P.	H.B.	Y.P.	A.s-A	A.s-B	A.s-C	灰分物	
1	煮物土上	10981-2	高 金	高 金	口	金	金	口	金	金	金	金
2	煮物土上	10982-1	高 金	高 金	口	金	金	口	金	金	金	金
3	煮物土上	10982-1	高 金	高 金	口	金	金	口	金	金	金	金
4	煮物土上	10983-1	高 金	高 金	口	金	金	口	金	金	金	金
5	口なし深煎色土上	10981-2	206	高 金	口	金	金	口	金	金	金	金
6	口なし深煎色土上	10981-2	203	高 金	口	金	金	口	金	金	金	金
7	口なし深煎色土上	10981-4	207	高 金	口	金	金	口	金	金	金	金
8	煮物土上	10983-2	高 金	高 金	口	金	金	口	金	金	金	金
9	煮物土上	10984-1	高 金	高 金	口	金	金	口	金	金	金	金
10	鍋	10981-2	208	高 金	口	金	金	口	金	金	金	金
11	鉢煎色土上	10981-2	208	高 金	口	金	金	口	金	金	金	金
12	煮物土上	10981-9	高 金	高 金	口	金	金	口	金	金	金	金

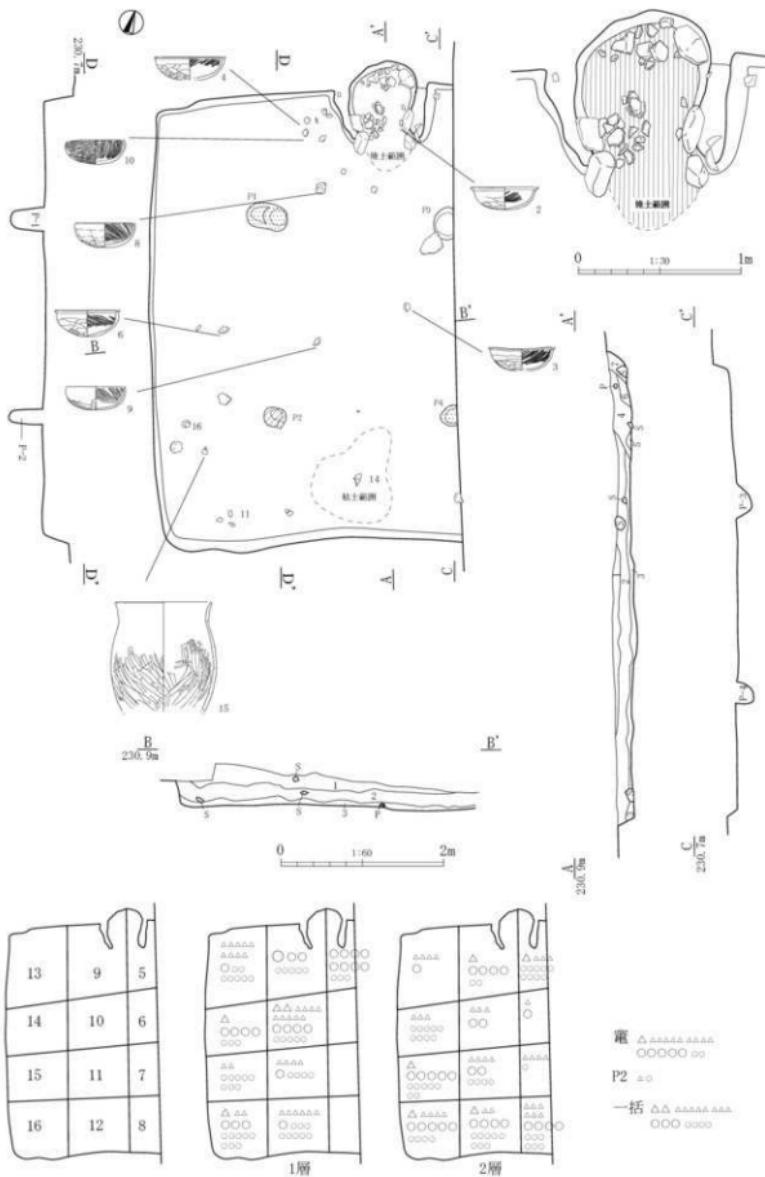
第21図 H6号住居址 (2)



第22図 H6号住居址出土遺物

遺物番号	器種	出土地点	底径(cm)	口径(cm)	内面	外表面	底面	成・形形法の特徴		
								内面	外表面	底面
1	土器 甕	N.6.9d, N.2	口径 23.0	底径 23.0	口微張 内面 凹	外表面 口縁部～瓶底直角で、腹部底付近が丸。 内面 口縁部～瓶底直角で、腹部底付近が丸。	底面 口縁部～瓶底直角で、腹部底付近が丸。			
		N.11, N.13, N.17 16052罐 一筋			口微張 内面 凹					
2	土器 甕		口径 23.0	底径 23.0	口微張 内面 凹	外表面 口縁部～瓶底直角で、腹部底付近が丸。 内面 口縁部～瓶底直角で、腹部底付近が丸。	底面 口縁部～瓶底直角で、腹部底付近が丸。			
3	土器 甕	N.13 一筋	口径 23.0	底径 23.0	口微張 内面 凹	外表面 口縁部～瓶底直角で、腹部底付近が丸。 内面 口縁部～瓶底直角で、腹部底付近が丸。	底面 口縁部～瓶底直角で、腹部底付近が丸。			
4	土器 甕	N.17 16052罐	口径 23.0	底径 23.0	口微張 内面 凹	外表面 口縁部～瓶底直角で、腹部底付近が丸。 内面 口縁部～瓶底直角で、腹部底付近が丸。	底面 口縁部～瓶底直角で、腹部底付近が丸。			
5	土器 甕	N.1, N.2 16052罐 一筋	口径 23.0	底径 23.0	口微張 内面 凹	外表面 口縁部～瓶底直角で、腹部底付近が丸。 内面 口縁部～瓶底直角で、腹部底付近が丸。	底面 口縁部～瓶底直角で、腹部底付近が丸。			

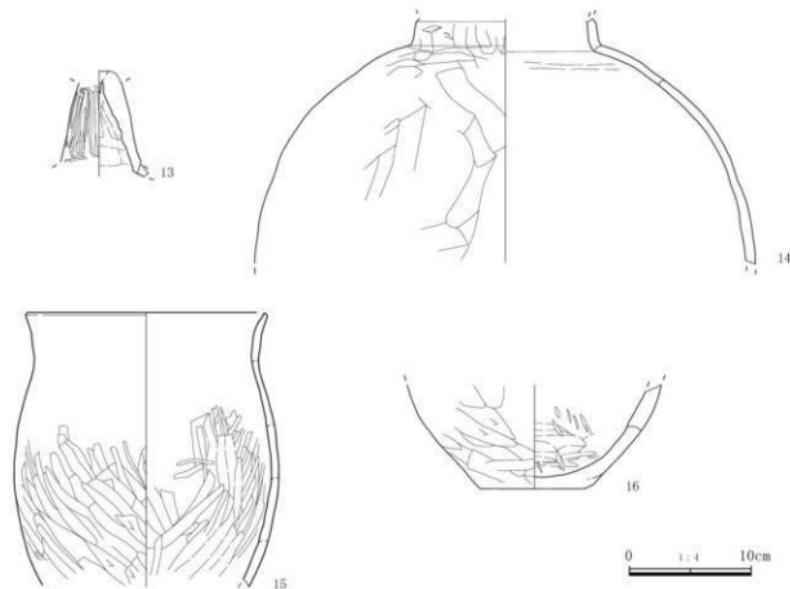
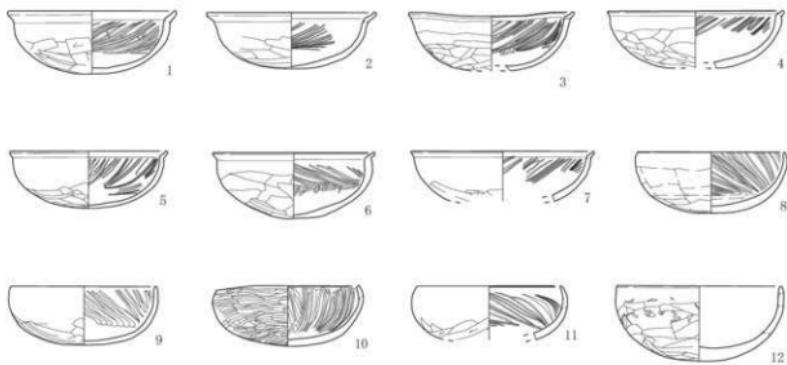
第7表 H6号住居址出土遺物観察表



第23図 H7号住居址 (1)

番号	発見名	色調	しまり	粒性	組入物						図考
					日P	月P	Y.P	A.s-A.s	A.s-C	混合物	
1	黒褐色1	10R3/1	△	○	●	●	●	●	●	△	●
2	黒褐色2	10R3/2	○	○	●	●	●	●	●	△	●
3	黒褐色3	10R3/3	○	○	●	●	●	●	●	△	●
4	黒褐色4	10R3/4	△	○	●	●	●	●	●	△	●
5	黒褐色5	10R3/5	△	○	●	●	●	●	●	△	●
6	黒褐色6	10R3/6	△	○	●	●	●	●	●	△	●
7	黒褐色7	10R3/7	△	○	●	●	●	●	●	△	●
8	黒褐色8	10R3/8	△	○	●	●	●	●	●	△	●
9	黒褐色9	10R3/9	△	○	●	●	●	●	●	△	●

第24図 H7号住居址 (2)



第25図 H7号住居址出土遺物

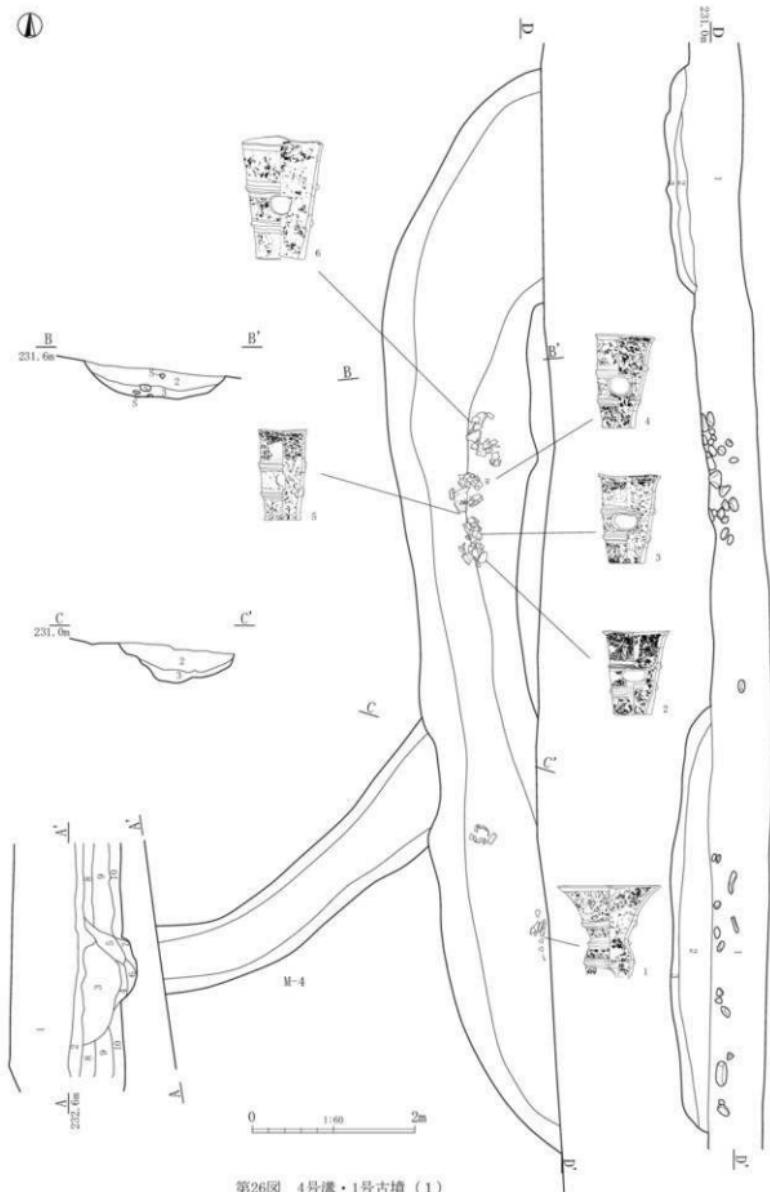
⑦H7号 (第23・24・25図、第8表、PL 4・12)

位置 E区中央、6E31グリッド他に位置する。 **形状・特徴** 住居の東側が調査区外であり、全体の形状は不明であるが、柱穴と想定される4基のピットより方形と考えられる。床面は固くしまっている。東西3.75m(確認部分)×南北5.65m×深さ0.30m。 **覆土** 黒褐色土を主体とする。褐色バミス(As-C?)を全体に含む。 **カマド** 北壁で検出された。燃焼部周囲を礫で囲っている。燃焼部中央付近で被熱した棒状礫が立った状態で出土しており、支脚と考えられる。 **遺物** 全体に遺物出土量が多い。南壁付近で灰白色の粘土塊が確認されている。 **時期** 5世紀後半と考えられる。

前田

遺物番号	品種	出土位置	直高さ(cm)	木心部	心材	外材	内面	背面	側面	右側面	左側面
1 井	100X31 14X31堆 鉢	口直通 口横張 口横張 口横張	11.8 13.8 13.8 13.8	木心材 心材 心材 心材	褐色 褐色 褐色 褐色	外材 外材 外材 外材	内面 内面 内面 内面	背面 背面 背面 背面	白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近	褐色 褐色 褐色 褐色	
2 土器 井	Na12. 離モ7 6X2堆 鉢	口直通 口横張 口横張 口横張	13.8 13.8 13.8 13.8	木心材 心材 心材 心材	褐色 褐色 褐色 褐色	外材 外材 外材 外材	内面 内面 内面 内面	背面 背面 背面 背面	白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近	褐色 褐色 褐色 褐色	
3 土器 井	Na14. 8-18-3X2堆 鉢	口直通 口横張 口横張 口横張	13.5 13.5 13.5 13.5	木心材 心材 心材 心材	褐色 褐色 褐色 褐色	外材 外材 外材 外材	内面 内面 内面 内面	背面 背面 背面 背面	白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近	褐色 褐色 褐色 褐色	
4 土器 井	Na17 5X2堆 5X2堆 鉢	口直通 口横張 口横張 口横張	11.0 13.5 13.5 13.5	木心材 心材 心材 心材	褐色 褐色 褐色 褐色	外材 外材 外材 外材	内面 内面 内面 内面	背面 背面 背面 背面	白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近	褐色 褐色 褐色 褐色	
5 土器 井	Na25. Na30. 壺	口直通 口横張 口横張 口横張	13.0 13.2 13.2 13.2	木心材 心材 心材 心材	褐色 褐色 褐色 褐色	外材 外材 外材 外材	内面 内面 内面 内面	背面 背面 背面 背面	白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近	褐色 褐色 褐色 褐色	
6 土器 井	Na12. 16X1堆 16X3堆 16X3堆 鉢	口直通 口横張 口横張 口横張	13.2 13.2 13.2 13.2	木心材 心材 心材 心材	褐色 褐色 褐色 褐色	外材 外材 外材 外材	内面 内面 内面 内面	背面 背面 背面 背面	白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近	褐色 褐色 褐色 褐色	
7 土器 井	Na14. 壺	口直通 口横張 口横張 口横張	13.9 13.9 13.9 13.9	木心材 心材 心材 心材	褐色 褐色 褐色 褐色	外材 外材 外材 外材	内面 内面 内面 内面	背面 背面 背面 背面	白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近	褐色 褐色 褐色 褐色	
8 土器 井	16X3堆 鉢	口直通 口横張 口横張 口横張	6.6 11.0 11.0 11.0	木心材 心材 心材 心材	褐色 褐色 褐色 褐色	外材 外材 外材 外材	内面 内面 内面 内面	背面 背面 背面 背面	白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近	褐色 褐色 褐色 褐色	
9 土器 井	Na13. 15X2堆 鉢	口直通 口横張 口横張 口横張	11.0 11.0 11.0 11.0	木心材 心材 心材 心材	褐色 褐色 褐色 褐色	外材 外材 外材 外材	内面 内面 内面 内面	背面 背面 背面 背面	白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近	褐色 褐色 褐色 褐色	
10 土器 井	Na18. Na29. 壺	口直通 口横張 口横張 口横張	11.8 11.8 11.8 11.8	木心材 心材 心材 心材	褐色 褐色 褐色 褐色	外材 外材 外材 外材	内面 内面 内面 内面	背面 背面 背面 背面	白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近	褐色 褐色 褐色 褐色	
11 土器 井	Na10 16X3堆 鉢	口直通 口横張 口横張 口横張	11.8 11.8 11.8 11.8	木心材 心材 心材 心材	褐色 褐色 褐色 褐色	外材 外材 外材 外材	内面 内面 内面 内面	背面 背面 背面 背面	白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近	褐色 褐色 褐色 褐色	
12 土器 井	16X1堆 13X1堆 鉢	口直通 口横張 口横張 口横張	13.5 13.5 13.5 13.5	木心材 心材 心材 心材	褐色 褐色 褐色 褐色	外材 外材 外材 外材	内面 内面 内面 内面	背面 背面 背面 背面	白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近	褐色 褐色 褐色 褐色	
13 土器 井	1瓶 1瓶 1瓶	口直通 口横張 口横張 口横張	— — — —	木心材 心材 心材 心材	褐色 褐色 褐色 褐色	外材 外材 外材 外材	内面 内面 内面 内面	背面 背面 背面 背面	白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近	褐色 褐色 褐色 褐色	
14 土器 井	Na2. 8X2堆 8X2堆 8X2堆 鉢	口直通 口横張 口横張 口横張	— — — —	木心材 心材 心材 心材	褐色 褐色 褐色 褐色	外材 外材 外材 外材	内面 内面 内面 内面	背面 背面 背面 背面	白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近	褐色 褐色 褐色 褐色	
15 土器 井	Na7. N. 8 16X1堆 7X2堆 14X1堆 鉢	口直通 口横張 口横張 口横張 口横張	18.0 18.0 18.0 18.0 18.0	木心材 心材 心材 心材 心材	褐色 褐色 褐色 褐色 褐色	外材 外材 外材 外材 外材	内面 内面 内面 内面 内面	背面 背面 背面 背面 背面	白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近	褐色 褐色 褐色 褐色 褐色	
16 土器 井	Na25. Na26 壺-1瓶 Na5. 1堆	口直通 口横張 口横張 口横張	— — — —	木心材 心材 心材 心材	褐色 褐色 褐色 褐色	外材 外材 外材 外材	内面 内面 内面 内面	背面 背面 背面 背面	白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近 白泥質燒成で、体部～底面附近	褐色 褐色 褐色 褐色	

第8表 H7号住居址出土遺物観察表

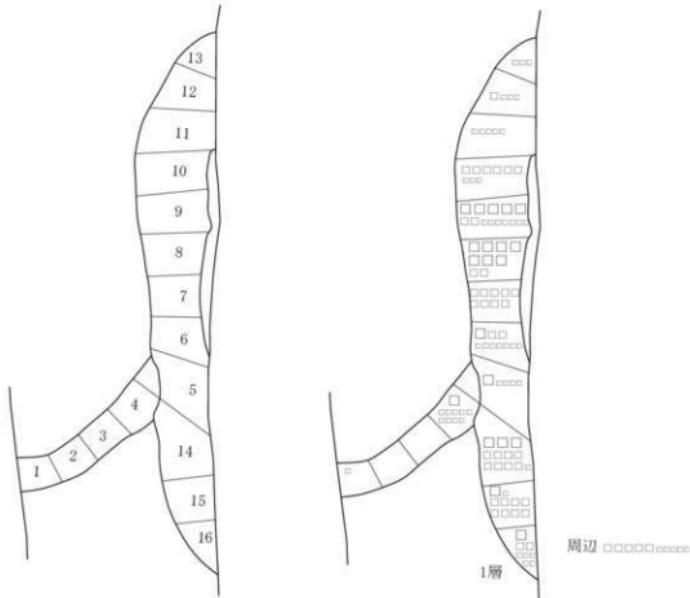


第26図 4号構・1号古墳(1)

(2) 古墳

①号古墳 (第26・27・28・29図、第9表、PL 5・13・14)

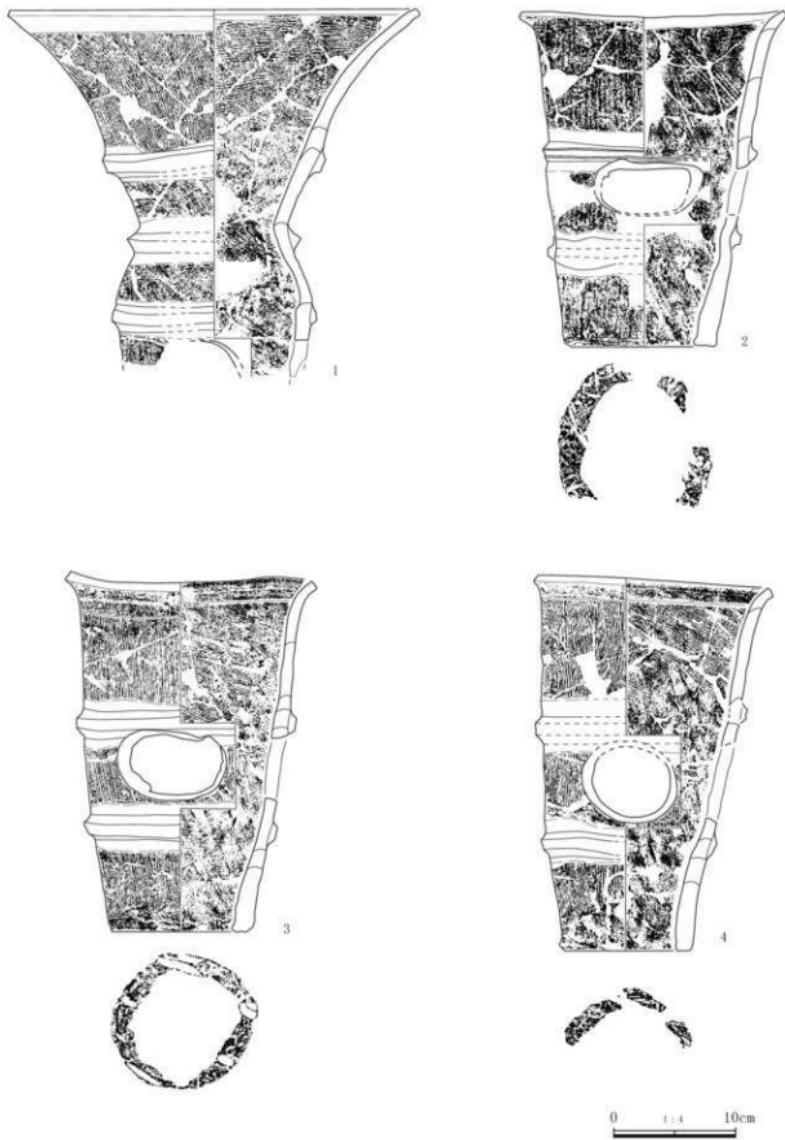
CD区北寄り、7E 64グリッド他に位置する。当初M4-2号溝としていたが、調査を進めていくと覆土中より約10個体の円筒埴輪が出土したため、古墳周堀の一部と判断した。平面形状は、ほぼ南北方向に直線状部分を有し、南北両端が東側の調査区界へとカーブしている。直線状部分の長さは、周堀西側において10m弱を測る。一定距離の直線状部分を有するため、帆立貝形古墳・前方後円墳・方墳のいずれかである可能性が想定されるが、部分的調査であるため詳細については不明である。出土した円筒埴輪には、半円形の透孔を持つものがある。築造時期は5世紀末～6世紀初頭と考えられ、九十九川流域では最古級である。なお、4号溝からも円筒埴輪片が出土しているが、形状・位置より本遺構とは別遺構と判断した。両遺構の新旧関係については不明である。



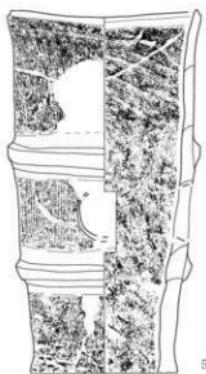
編番	層名	色調	しまり	粒径	埋入物								備考
					H.P.	H.B.	V.P.	A.s-A	A.s-B	A.s-C	透花物	埴土	
1	埴地色土	30194-1	△	△	●	●	●	○	△	●	●	●	埴地色土
2	埴地色土	30193-1	○	△	●	●	●	○	●	●	●	●	○
3	埴地色土	30193-2	○	△	●	●	●	○	●	●	●	●	M-1層上
4	埴地色土	30193-3	○	△	●	●	●	○	●	●	●	●	M-1層上
5	埴地色土	30193-4	○	△	●	●	●	○	●	●	●	●	M-1層土
6	埴地色土	30193-5	○	△	●	●	●	○	●	●	●	●	M-1層土
7	埴地色土	30193-6	○	△	●	●	●	○	●	●	●	●	M-1層土
8	埴地色土	30193-7	○	△	●	●	●	○	●	●	●	●	M-1層土
9	埴地色土	30193-8	○	△	●	●	●	○	●	●	●	●	●
10	灰褐色色土	30194-2	○	○	○	○	○	△	△	●	●	●	埴山

編番	層名	色調	しまり	粒径	埋入物								備考
					H.P.	H.B.	V.P.	A.s-A	A.s-B	A.s-C	透花物	埴土	
1	埴地色土	30193-1	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	2-3.1m～1.9m左の側面入
2	埴地色土	30193-2	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	
3	2.3m～灰褐色色土	30194-3	○	△	△	●	●	●	●	●	●	●	

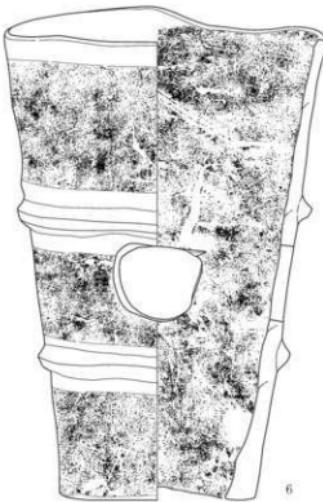
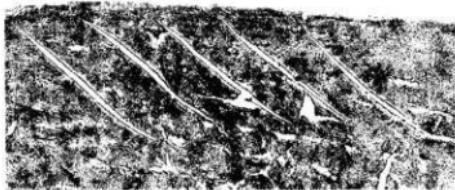
第27図 4号溝・1号古墳 (2)



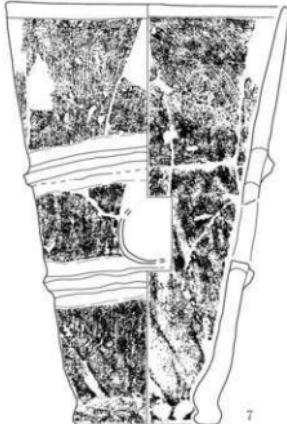
第28図 1号古墳出土遺物（1）



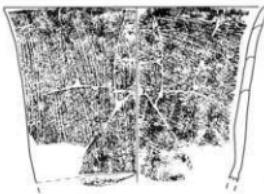
5



6



7



8

0 1:4 10cm

第29図 1号古墳出土遺物 (2)

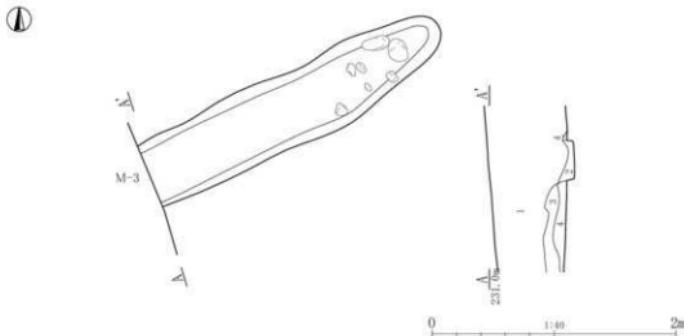
1号古墳

番号	種類	凸部		溝部		地土・色調	成形・施物の特徴		出土位置
		前面長	前面形状	側面	幅×高				
1	円錐埴輪 筒形埴輪	13.7 6.9 8.2 —	台形又は二角形 台形	円形?	—	褐色系、深褐色	外面 上反斜面～側面斜面、上端直脚で、中段直脚で、下は斜面。内面 上反斜面～側面斜面、上端直脚で、中段直脚で。	Nd9	
2	円錐埴輪	10.0 6.9 7.5	台形又は二角形 半円形	(3.6) × 2.3	褐色系、黑色系 青褐色	外面 上端直脚で、上端～下段直脚で。 内面 上反斜面直角、上端直脚で、中段～下段直脚で。	Nd7		
3	円錐埴輪	13.3 6.4 7.5	台形	円筒	4.8 × 2.8	褐色系、石青 中褐色	外面 側面斜面直角、上端直脚及び側面斜面で、下端直脚で。内面 上反斜面直角、上端直脚で、中段～下段直脚で。	Nd6	
4	円錐埴輪	10.2 7.2 7.5	台形	心形複円?	(5.0) × 6.4	褐色系、深 紅～真褐色	外面 側面斜面直角、上端直脚及び側面斜面で、下端直脚で又は斜面。 内面 上反斜面直角、上端直脚で、中段～下段直脚で。	Nd5	
5	円錐埴輪	10.5 7.1 7.3	台形	円筒?	—	褐色系、黑色系 青褐色	外面 側面斜面直角、上端直脚及び側面斜面で、下端直脚で。 内面 上反斜面直角、上端直脚で、中段～下段直脚で。	Nd4	
6	円錐埴輪	15.0 12.3 12.2	台形又は二角形 心形圓	6.4 × 2.3	白色系、黑色系、 褐色	外面 上端直脚で、側面斜面で。 内面 小縫合直脚で、側面斜面で。全体の斜面の範囲あり。 全体にふた割断で蓋にて押しつぶされたような状態。	Nd3		
7	円錐埴輪	12.2 7.2	—	円筒?	—	褐色系、深 褐色	外面 側面斜面直角直角で、上端直脚及び側面斜面で。 内面 上反斜面直角直角、上端直脚のみ直脚で、中段～下段直脚で。	K区1層	
8	円錐埴輪	—	—	—	—	白色系、褐色系	外面 側面斜面直角直角、上端直脚のみ直脚で、中段～下段直脚で。	K区2層 K区3層 K区4層	

第9表 1号古墳出土遺物観察表

(3) 溝 (第30・31・32図、第11表、PL.6)

溝・土坑・ピットについては、遺構観察表を掲載する。

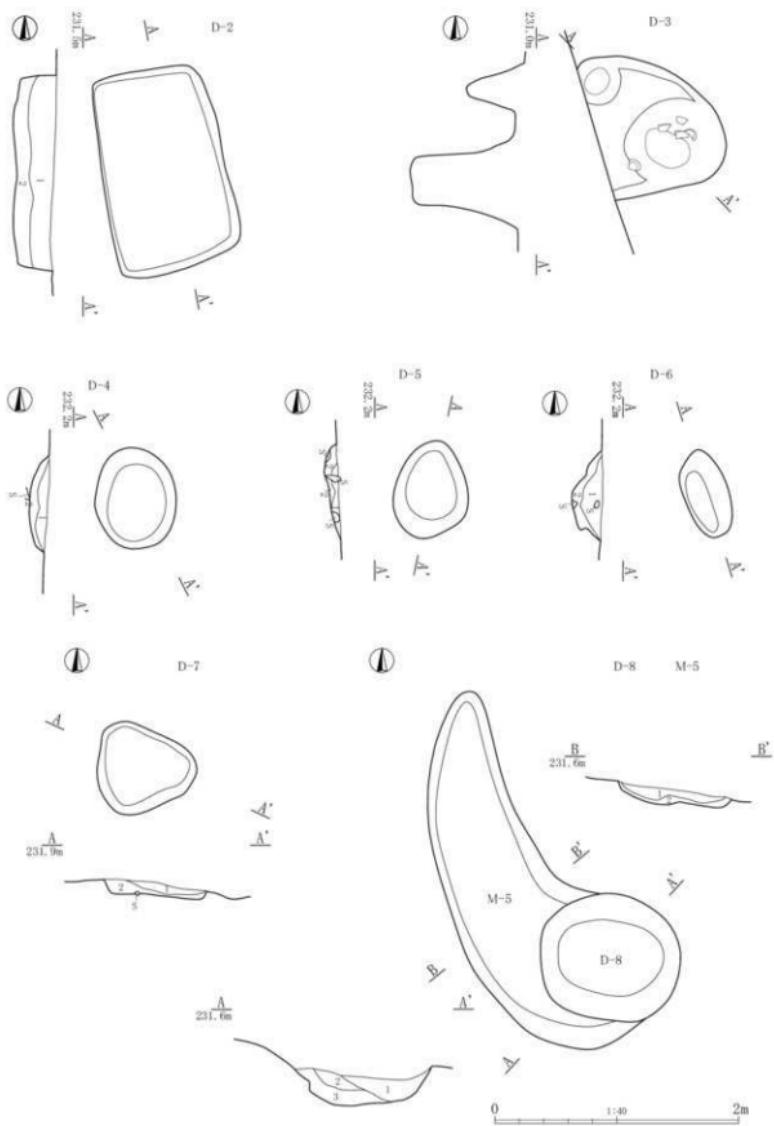


番号	編名	色調	しまり	形態	器物						備考	
					H.P.	H.B.	V.P.	A ← B	A × B	A → C	同化物	
1	埴輪灰土	001001.1	○	全	○	○	○	○	○	○	○	現代の耕作土
2	埋め土	001002.2	△	全	○	○	○	○	○	○	○	Ⅱ-3の土上
3	埋め土	001003.3	○	全	○	○	○	○	○	○	○	表面
4	○-4-1.黄褐色土上	001004.3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	李段

第30図 3号構

(4) 土坑 (第31・32・33図、第10・11・12表、PL.6・7・14)

B区・CD区において、7基の土坑が検出された。3号土坑からは一定量の遺物が出土している。前述のように3号土坑は、堅穴住居のプランを見落とし、柱穴と貯蔵穴だけを確認している可能性がある。



第31図 2~8号土坑・5号溝 (1)

層番	層名	色調	しまり	粒度	測定値								備考
					R.P	H.B	V.P	A.s - A	A.s - B	A.s - C	珪化物	鐵土	
1	黄褐色上	10902-2	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2	黄褐色中	10903-1	○	○	●	●	●	△	●	●	●	●	●

層番	層名	色調	しまり	粒度	測定値								備考
					R.P	H.B	V.P	A.s - A	A.s - B	A.s - C	珪化物	鐵土	
1	黄褐色上	10902-2	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2	黄褐色中	10904-2	○	○	△	△	●	●	●	●	●	●	●

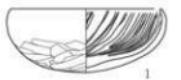
層番	層名	色調	しまり	粒度	測定値								備考
					R.P	H.B	V.P	A.s - A	A.s - B	A.s - C	珪化物	鐵土	
1	黄褐色上	10902-2	△	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2	黄褐色中	10904-2	○	○	△	△	●	●	●	●	●	●	●

層番	層名	色調	しまり	粒度	測定値								備考
					R.P	H.B	V.P	A.s - A	A.s - B	A.s - C	珪化物	鐵土	
1	黄褐色上	10902-2	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2	黄褐色中	10904-2	○	○	△	△	●	●	●	●	●	●	●

層番	層名	色調	しまり	粒度	測定値								備考
					R.P	H.B	V.P	A.s - A	A.s - B	A.s - C	珪化物	鐵土	
1	黄褐色上	10902-2	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2	黄褐色中	10903-2	○	○	△	△	●	●	●	●	●	●	●

層番	層名	色調	しまり	粒度	測定値								備考
					R.P	H.B	V.P	A.s - A	A.s - B	A.s - C	珪化物	鐵土	
1	黄褐色上	10902-2	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2	黄褐色中	10903-2	○	○	△	△	●	●	●	●	●	●	●

第32図 2~8号土坑・5号溝(2)



0 1:4 10cm

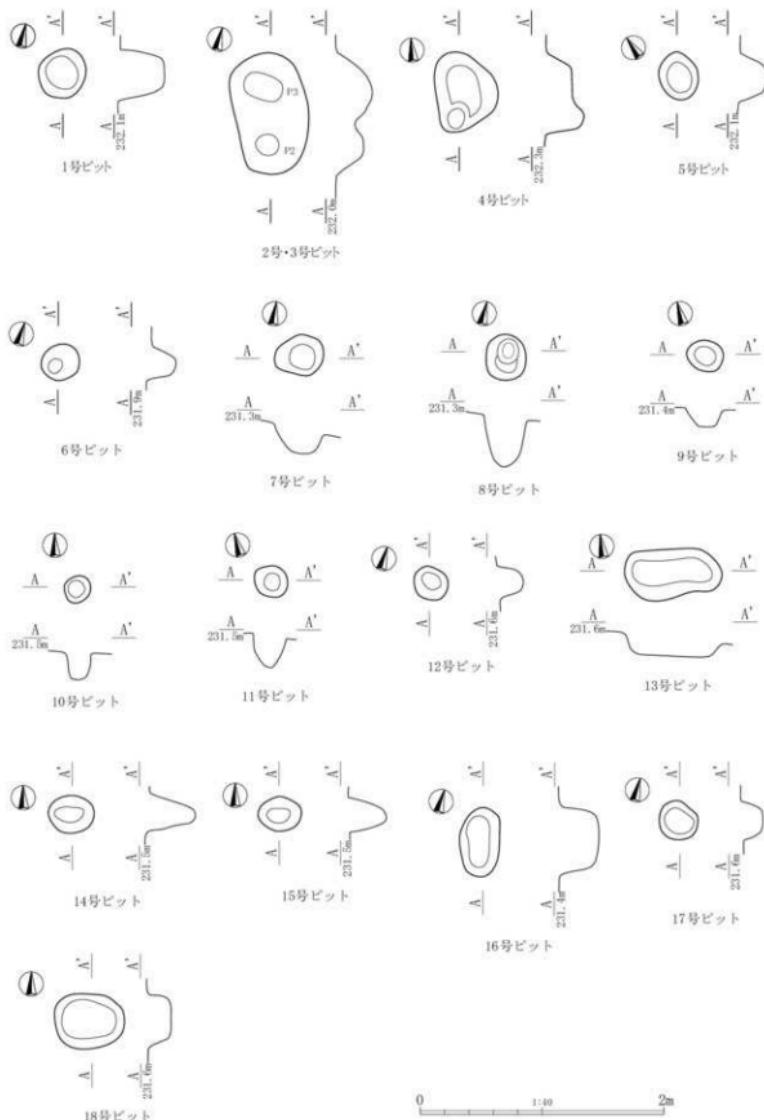
第33図 3号土坑出土遺物

3号土坑													
遺物番号	置場	田代	田代位置	直徑(cm)	工具成形	色彩	形態	直徑(cm)	工具成形	色彩	形態	直徑(cm)	工具成形
1	土壠 中	No.1	11.6	11.6	磨成	深褐色	圓錐形	11.6	磨成	深褐色	圓錐形	11.6	磨成
			直徑 11.6										
2	土壠 中	No.2	11.6	11.6	磨成	深褐色	圓錐形	11.6	磨成	深褐色	圓錐形	11.6	磨成
			直徑 11.6										

第10表 3号土坑出土遺物観察表

(5) ピット (第34図、第13表)

B区・C区において、18基のピットが検出された。



第34図 1~18号ビット

遺構名	位置		規模		深さ	断面	備考
	区	グリッド	長さ	最大幅			
3号溝	CD	8E-79他	276	60	13	箱状	数値は確認部分におけるもの。
4号溝	CD	7E-77他	300	70	22	箱状	数値は確認部分におけるもの。1号古墳と重複。新旧関係は不明。
5号溝	CD	7E-46他	340	120	19	箱状	8号土坑と重複。本遺構が古い。

第11表 溝観察表

(単位はcm)

遺構名	位置		規模(上)		規模(下)		深さ	平面形態	断面	備考
	区	グリッド	長軸	短軸	長軸	短軸				
2号土坑	CD	8E-28他	168	100	156	90	41	長方形	箱状	
3号土坑	B	6E-94他	140	—	40	—	89	不明	不整形	数値は確認部分におけるもの。
4号土坑	B	6E-74	84	68	64	48	11	椭円形	箱状	
5号土坑	B	6E-84	80	60	58	42	12	椭円形	箱状	
6号土坑	B	7E-05他	74	36	52	18	21	椭円形	椭状	
7号土坑	CD	8E-38	80	78	68	62	11	隅丸三角形	箱状	
8号土坑	CD	7E-46他	116	104	88	62	31	円形	箱状	5号坑と重複。本遺構が新しい。

第12表 土坑観察表

(単位はcm)

遺構名	位置		規模(上)		規模(下)		深さ	平面形態	断面	備考
	区	グリッド	長軸	短軸	長軸	短軸				
1号ピット	B	6E-84	40	40	30	24	38	円形	箱状	
2号ピット	B	6E-74	—	—	20	18	23	不明	不明	3号ピットと重複。新田不明。
3号ピット	B	6E-74	—	—	32	20	31	不明	不明	2号ピットと重複。新田不明。
4号ピット	B	6E-74	60	50	16	14	32	不整形	不整形	
5号ピット	B	6E-94	40	32	24	20	25	椭円形	椭状	
6号ピット	B	7E-05	32	28	12	10	28	円形	椭状	
7号ピット	CD	8E-79	42	34	22	10	15	椭円形	椭状	
8号ピット	CD	8E-69	38	32	12	10	36	円形	椭状	
9号ピット	CD	8E-58	30	26	20	16	13	円形	椭状	
10号ピット	CD	8E-58	24	20	14	14	21	円形	椭状	
11号ピット	CD	8E-58	30	26	14	14	20	円形	椭状	
12号ピット	CD	8E-58	30	26	16	12	20	円形	椭状	
13号ピット	CD	8E-58	80	42	64	18	10	椭円形	箱状	
14号ピット	CD	8E-48	38	30	24	12	33	椭円形	椭状	
15号ピット	CD	8E-48	34	28	20	14	30	椭円形	椭状	
16号ピット	CD	8E-48	56	32	42	16	32	椭円形	箱状	
17号ピット	CD	8E-48	54	30	24	20	17	円形	椭状	
18号ピット	CD	8E-48	56	44	44	32	20	椭円形	箱状	

(単位はcm)

第13表 ピット観察表

第4節 中世

(1) 性格不明遺構 (第36図、PL7)

試掘調査時より、非常に顕著な硬化面を有する As-B 混土層の存在は把握していた。しかし、本章第1節で述べた理由により、全面での調査は不可能と判断し、一部分の調査を実施した。CD区北端では、幅20~40cmの帯状硬化面が6条検出された。それぞれの硬化面は、現在の地割り(農道)に並行するように検出されている。硬化面1~4は、階段状に高低差を有する。硬化面5と6の間では、人頭大の礫が列状に検出された。断面図から判断すると、全ての硬化面が同時に存在していたわけではなく、低い硬化面ほど古いと考えられる。なお、第35図において、硬化面南端が途切れているのは、遺構確認面の高度が下がっている為であり、本来ならば南に続いている。明らかに本遺構に伴うと考えられる遺物は皆無であり、時期についての断定は難しいが、層位より中世の所産と推測される。

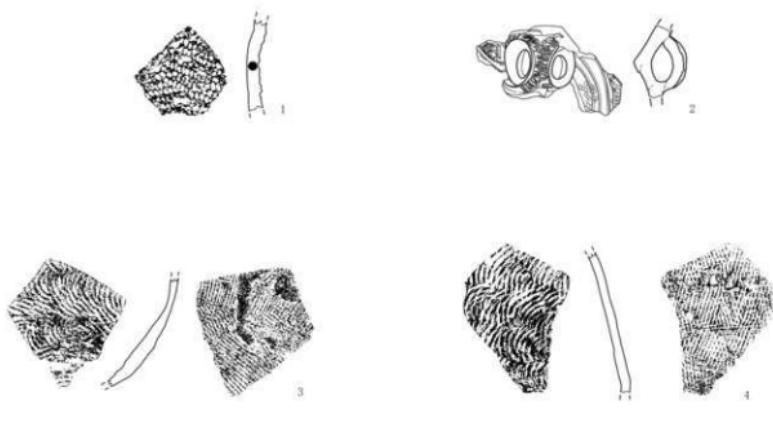
第5節 遺構外出土遺物

(1) 繩文時代（第35図、第14表、PL 14）

繩文時代の遺構は検出されなかったが、前期中葉～中期中葉～後葉・後期所産の土器片が少量出土している。

(2) 古代（第35図、第14表、PL 14）

古代の遺構は検出されていない。B区より出土した須恵器片を掲載する。

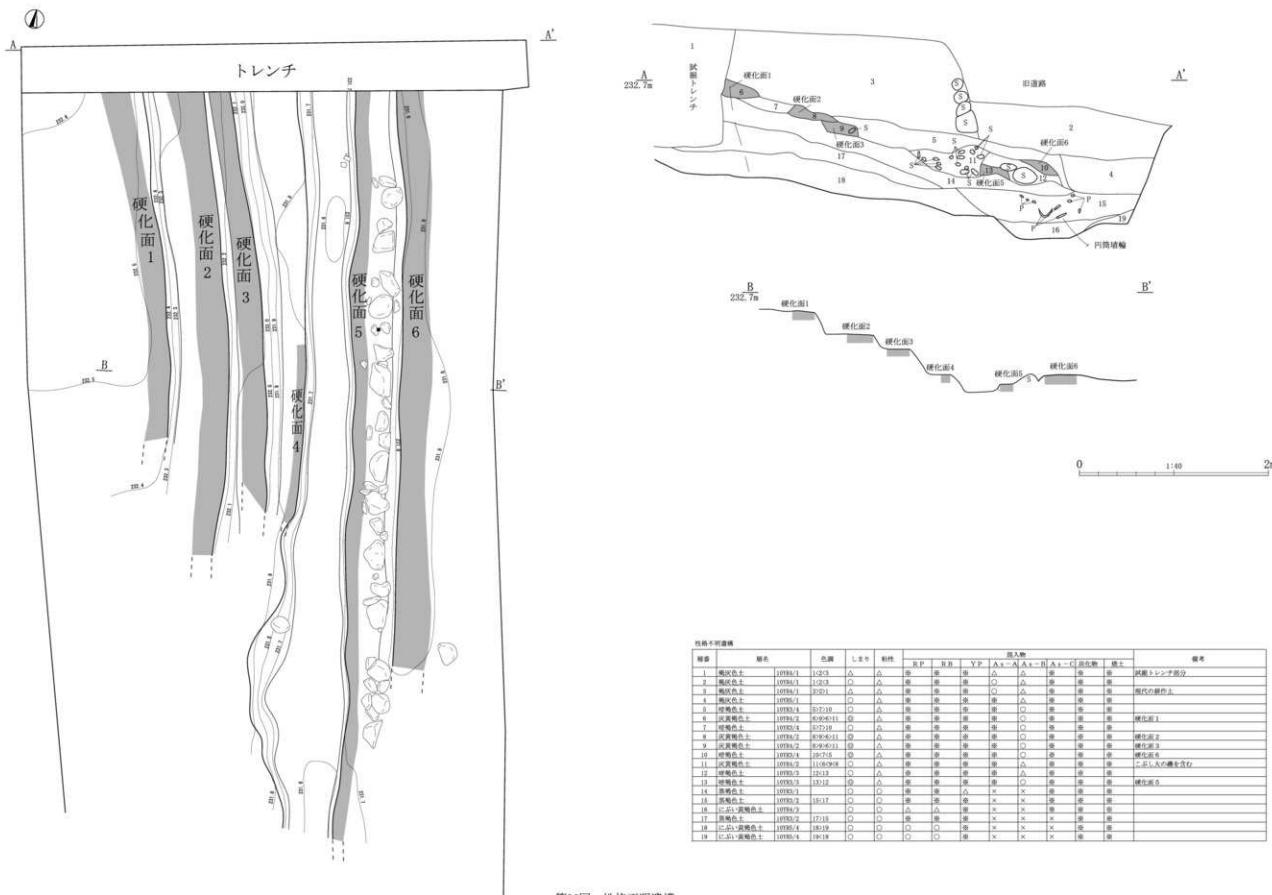


第35図 遺構外出土遺物

0 1:4 10cm

遺構外 出土遺物							成・形・施文・特徴	
	目 標	出 土 位 置	法 庫 (cm)	工 備 成 分	色 調	施 文		
1	縄文 陶片	1-18 口掛 試験 回収 ()	口掛 直掛 直掛 直掛 ()	江戸前 濃青 濃青 濃青 ()	②に-1-1 青褐色 ②白色 褐色 褐色	施文無し、表面中堅。		
2	縄文 陶片	C300H-01 口掛 直掛 直掛 直掛 ()	口掛 直掛 直掛 直掛 ()	江戸前 濃青 濃青 濃青 濃青	②外-灰青色～鈍色。 内-黒褐色 ③白色 褐色 褐色 褐色	筒輪把手、輪に施文を複数。前面三角形の溝線で区画。縄文の継続性文様を複数。底部を直角後端部に沿って施文。中堅中堅。		
3	須恵器 片	HSC 21-1 直掛 直掛 直掛 ()	口掛 直掛 直掛 直掛 ()	須恵器 濃青 濃青 濃青 濃青 ()	①濃青 ②に-1-1 濃青 濃青 濃青 濃青 ()	外面 平行引き。一部に自然断行有 内面 施文複数。		
4	須恵器 片	HSC 21-1 直掛 直掛 ()	口掛 直掛 直掛 直掛 ()	須恵器 濃青 濃青 濃青 濃青 ()	①濃青/薄青 ②鈍灰色 ③黑色 絆・石美 絆	外面 平行引き。一部に自然断行有 内面 施文複数。		

第14表 遺構外出土遺物観察表



第36図 性格不明透構

第5章 総括

ここでは、今回の発掘調査の成果を時代ごとにまとめ、若干の考察を加え総括したい。

縄文時代

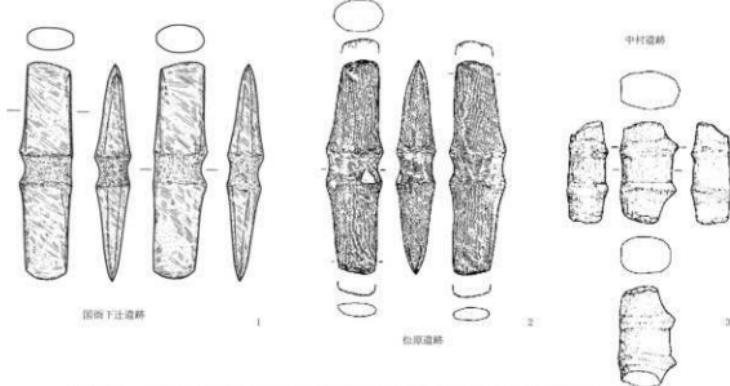
遺構は検出されていないが、前期中葉の胎土に植物繊維が混入する土器片、中期中葉～後葉の土器片、後期の所産と考えられる土器片等が出土している。町道改良工事に伴い調査された「国衙遺跡群II」(1992 松井田町教育委員会)で報告されている土器群の時期も、今回検出されたものと同様の傾向を示している。周辺地域の詳細遺物分布調査の結果を合わせ見ても、前期中葉～後期前葉の時期に、周辺に小規模集落が断続的に形成されていた可能性が考えられる。

弥生時代

検出された遺構は、中期後葉の所産と考えられる堅穴住居址1軒である。出土土器には、波状櫛描文・綾状羽状櫛描文等が施文されており、栗林II式期並行と考えられる。前出の「国衙遺跡群II」15号住居が、今回調査されたY1号住居址と同時期である。旧松井田町地区の九十九川流域において、既報告遺跡で当該期の住居址が検出されているのは、この2例だけである。

一方、栗林II式期に後続する後期樽式期の住居址は、九十九川流域においては多数検出されている。特に、本遺跡の東に位置する小日向地区遺跡群（今年度末報告書刊行予定）においては、平成16～19年度に実施された土地改良事業に伴う調査により、180軒弱の樽式期住居址が検出されている。しかし、栗林式期所産のものは、遠地谷戸遺跡A区1号住居址とB区9号住居址の2軒のみである。このことは、栗林式期において九十九川流域には小規模集落が点在していただけであるが、樽式期になり、流域全体に長野方面からの大規模な人の動きがあったことを示している。また、今回本調査は実施していないが、開発区域北半において樽式期の所産と考えられる住居址が複数軒確認されている。前述の国衙地区遺跡群II 15号住居址は、樽式期住居址と重複している。また、今回の調査地周辺からも、樽式期の土器片が一定量表採されることから、本台地上にも樽式期の集落が展開していることが想定される。

次にY1号住居址出土の獨鉛石状石器について若干言及する。この石器は住居址東壁際床面上より出土している。当初縄文時代遺物の流れ込みと考えたが、縄文時代の獨鉛石と比較して全体に扁平であること、使用石材が弥生時代の磨製石斧に多用される輝綠岩であること、他遺跡に類例があること（長野県長野市松原遺跡・群馬県渋川市中村遺跡）から、Y1号住居址に伴うものと判断した。以下、本遺跡・松原遺跡・中村遺跡出土の獨鉛石状石器（中村遺跡の報告書では「獨鉛石」という名称が用いられているが、縄文時代の「獨鉛石」と区別をするため、ここでは獨鉛石状石器という名称に統一する）。中村遺跡出土の獨鉛石状石器は、他遺跡出土のものとの比較を容易にするため、報告書とは掲載の角度を90度変えている。これに伴い計測表の縦・横の数値が入れ替わっている。）の実測図・計測表を掲載する。



第37図 国衙下辻遺跡・松原遺跡・中村遺跡出土独鉛石状石器

No.	出土遺跡	縦(cm)	横(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	時期	備考
1	国衙下辻遺跡	17.7	4.4	3.0	315.9	輝緑岩	栗林式期	
2	松原遺跡	17.5	4.7	3.2	348.8	変質輝緑岩	栗林式期	
3	中村遺跡	(8.3)	4.7	3.05	(195)	はんれい岩	弥生時代中期	〈〉内の数値は遺存部分におけるもの。

第15表 独鉛石状石器計測表

これらの独鉛石状石器の中で、本遺跡出土のものを除く2点は遺構からの出土ではないが、その出土状況や遺跡の主体をなす時期等から弥生時代中期の所産と報告されている。全国的に見ても、弥生時代中期の所産と考えられる独鉛石状石器の出土例が稀少である中、断定することは難しいが、本遺跡での出土状況を見る限り、縄文時代晩期に製作のピークをむかえた独鉛石は、その形状（あるいは機能も？）を変えながらも弥生時代中期後半では、その系譜を受け継ぐ石製品として製作が継続されたと言えよう。また、本市周辺の中期後半～後期の土器群の様相を見た時、長野市周辺に分布の中心を持つ栗林・箱清水式土器群との関わりを否定することは不可能であろう。前出の長野県松原遺跡は、近接する榎田遺跡とともに当該期の磨製石斧製作遺跡として名高い。松原遺跡出土の独鉛石状石器と酷似する本遺跡の独鉛石状石器は、当該期における両地域の物流・文化的交流の存在を追認する資料であると位置づけたい。

古墳時代

検出された堅穴住居址は7軒であり、全て5世紀から6世紀にかけての所産と考えられる。時期が推定できる古墳時代遺構の時期別一覧は次のとおりである。

時期	堅穴住居址	その他の遺構	備考
5世紀前半	2号住居址		
5世紀半ば	4号住居址		
5世紀後半	1号住居址 7号住居址	3号土坑 1号古墳	3号住居址は、5世紀後半から6世紀前半の所産と推定されるが、出土遺物が小破片のみのため時期の断定が難しい。
6世紀前半	5号住居址		
6世紀半ば			
6世紀後半	6号住居址		

第16表 古墳時代遺構時期別一覧

九十九川流域においては、本遺跡の上流に位置する高梨子森下遺跡（第1図 NO26）において40軒の古墳時代堅穴住居址が検出されている。また、前出の小日向地区遺跡群（第1図 NO19）においては129軒の古墳時代堅穴住居址が検出されている。しかし、両遺跡とも古墳時代初頭～4世紀前半、5世紀後半～7世紀前半所産の住居址が大部分であり、4世紀後半～5世紀前半所産と断定できるものは皆無であった。今回の調査により、数量的には僅かであるが、集落が絶すると思われていた時期の堅穴住居址が確認されたことは、周辺地域の集落の変遷を考察していく上で、貴重な資料となりえる。なお、近年の発掘調査の成果より、4世紀～5世紀前半の大規模集落が、碓氷川右岸上位段丘の横原台地上に点在していることが明らかになりつつある。これらの集落と本遺跡との位置づけ、より広域的視点からの集落変遷の検討はこれから課題である。

1号古墳は調査区の関係上、周囲の部分的調査に留まり、全体形状・主体部の構造等の詳細は不明である。出土遺物は円筒埴輪が約10個体であり、それ以外の古墳に伴うと考えられる遺物は確認されていない。円筒埴輪の特徴として、以下の点があげられる。

- ①色調が多様である(焼成温度・方法が一定でない)。
- ②刷毛目が浅く不明瞭なものが複数個体存在する。
- ③透孔が半円形、または横位に長軸を持つ橢円形のものが複数個体存在する。
- ④外側または内面に、数条の横位又は斜位の線刻を施しているものが複数個体存在する。

出土遺物が円筒埴輪だけであり築造時期の断定は難しいが、円筒埴輪の特徴からすると5世紀末から

6世紀初頭の所産と推定される。九十九流域では多数の古墳が確認されている。中でも後閑3号古墳と下増田上田中1号古墳（第1回NO.4）は「T字型石室」を有する古墳として注目されている。両古墳とも築造時期は6世紀初頭と推定されており、九十九流域においては最古級のものと考えられてきた。今回、この2基と同時期、または若干先行すると考えられる古墳の発見は、九十九川流域の古墳出現期を検討していく上で貴重な資料となるであろう。

古代

遺構は検出されていないが、試掘調査及び本調査において当該期の土器は一定量出土している。「国衙遺跡群II」の調査においても、平安時代住居址が6軒検出されている。周辺の遺物散布状況を合わせ見ても、一带に当該期集落が営まれていた可能性が高い。

中世

性格不明遺構として報告した非常に顕著なAs-B 軽石混土層の硬化面が検出されている。この硬化面は前章で述べたように現在の農道と並行するように、開発区域のほぼ全城において確認された。一定の距離連続する硬化面の性格として、まず思い浮かぶのが道路である。ここで看過できないのが、今回の開発区域から北西方向へ伸びる地割りである。ここにはほぼ直線状の地割りが現在も認められる。律令体制期の官道である「東山道」がこの地を通していたとする考え方もあるが、今まで周辺地域の発掘調査において道路状遺構は検出されていない。層位からすれば、この硬化面が中世の所産であり、たとえ道路であったとしても律令体制期の東山道ではないことに疑問を挟む余地はない。しかし、古代の道路に重複するように、あるいは並行するように中世の道路が築造される例は多数ある。以上の点から、なぜ硬化面が高低差を有する複数の帯状に検出されたのか、それに対する明確な回答は持ち合せていないが、本遺構が中世の道路である可能性も捨てきれないと考えている。判断は、今後の周辺地域の発掘調査成果に委ねたい。

参考文献

- 松井田町誌編さん委員会 1985 『松井田町誌』 松井田町誌編さん委員会
群馬県考古学談話会 1986 『東日本における中期後半の弥生土器』 千曲川水系古代文化研究所他
樺沢克明・五十嵐信・南雲芳昭 1986 『中村遺跡』 沼川市教育委員会他
山岸良二 1990 『北関東・「独鉛石」概観』 群馬県考古学研究会 「東国史論」
水沢祝彦・田口修 1992 『国衙遺跡群II』 松井田町教育委員会
町田勝則 2000 『松原遺跡』 日本道路公団・長野県教育委員会・長野県埋蔵文化財センター
壁伸明 2002 『人見大谷津遺跡』 松井田町教育委員会
大塚昌彦 2007 『伊香保の独鉛石』 群馬土器観会 「群馬考古学手帳」
井上慎也 2007 『加賀塚遺跡I』 安中市教育委員会
壁伸明・常深尚 2008 『高梨子地区遺跡群』 安中市教育委員会
川崎保 2008 『赤い土器のクニの考古学』 雄山閣
井上慎也 2009 『西横野東部地区遺跡群発掘調査概報2』 安中市教育委員会

写 真 図 版



Y1住 セクション（東より）



Y1住 セクション（南より）



Y1住 遺物出土状況(1)（南より）



Y1住 遺物出土状況(2)



Y1住 完掘状況（南より）



H1住 カマドセクション（南より）



H1住 1号ピットセクション（東より）



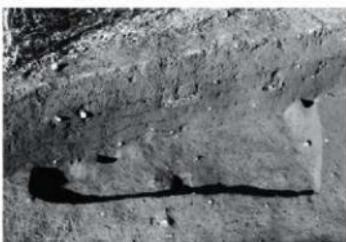
H1住 遺物出土状況（東より）



H1住 カマド検出状況



H2住 セクション（北より）



H2住 完掘状況（東より）



H3住 セクション（南より）



H3住 完掘状況（西より）



H4住 遺物出土状況(1) (南より)



H4住 遺物出土状況(2)



H4住 遺物出土状況 (南より)



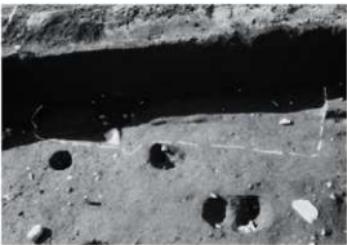
H4住 遺物出土状況(4)



H4住 完掘状況 (南より)



H5住 貯藏穴遺物出土状況



H5住 完掘状況（東より）



H6住 遺物出土状況（南より）



H6住 完掘状況（南より）



H7住 遺物出土状況(1)（南より）



H7住 遺物出土状況(2)



H7住 完掘状況（南より）



H7住 カマド検出状況（南より）



1号古墳周堀遺物出土状況(1) (北より)



1号古墳周堀遺物出土状況(2) (北より)



1号古墳周堀遺物出土状況(3)



1号古墳周堀完掘状況(4)



1号古墳周堀完掘状況 (北より)



3号溝 セクション（西より）



3号溝 完掘状況（南より）



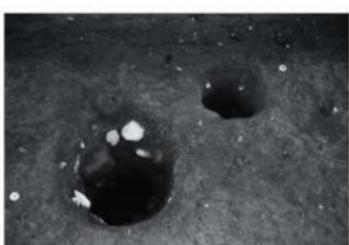
2号土坑 セクション（西より）



2号土坑 完掘状況（南より）



3号土坑 遺物出土状況



3号土坑 完掘状況



4号土坑 完掘状況



5号土坑 完掘状況



6号土坑完掘状況



7号土坑完掘状況



5号溝・8号土坑完掘状況



性格不明遺構セクション（南より）



性格不明遺構 検出状況（南より）

Y1 号住



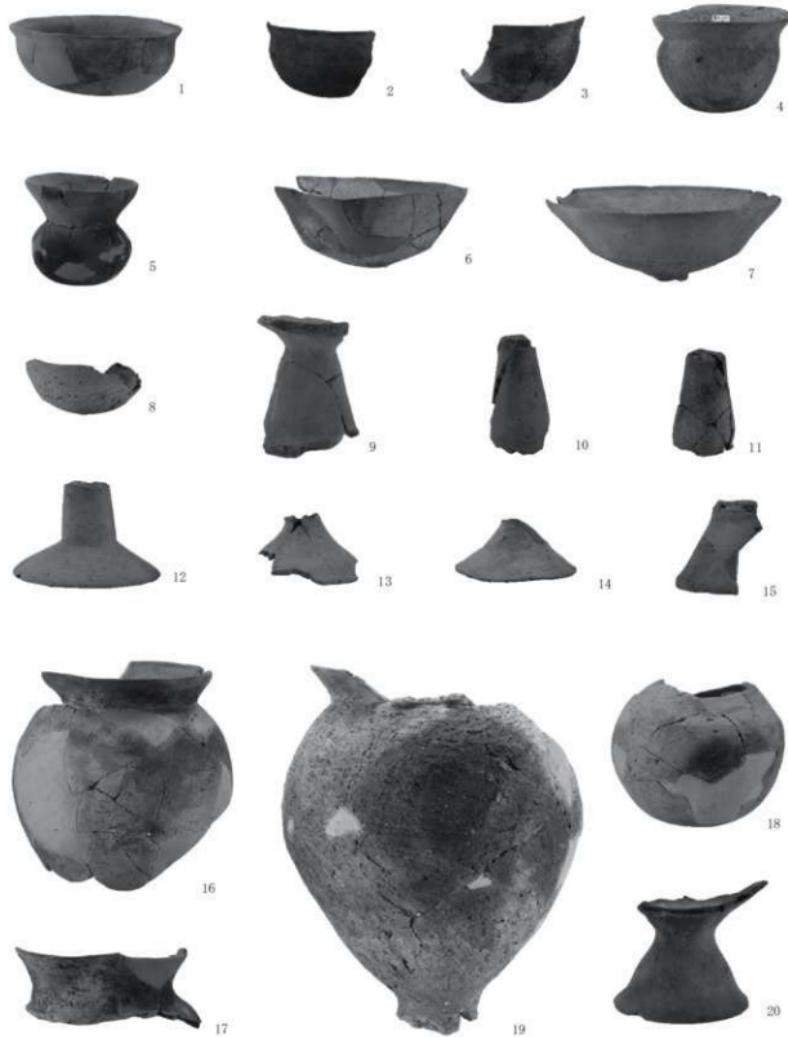
H1 号住



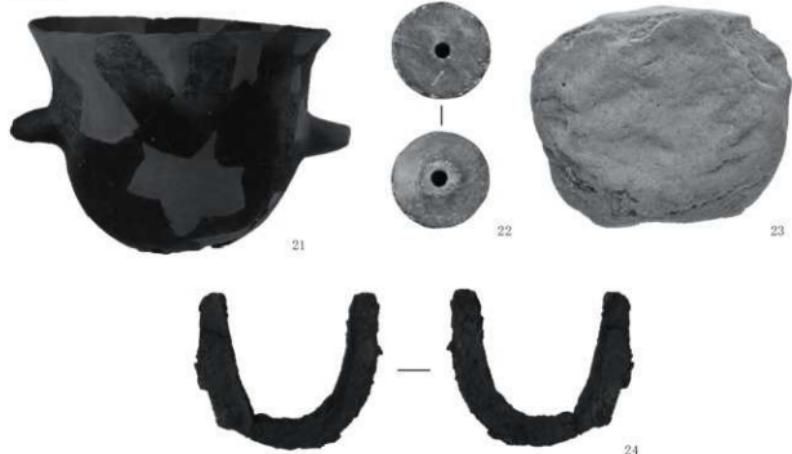
H2 号住



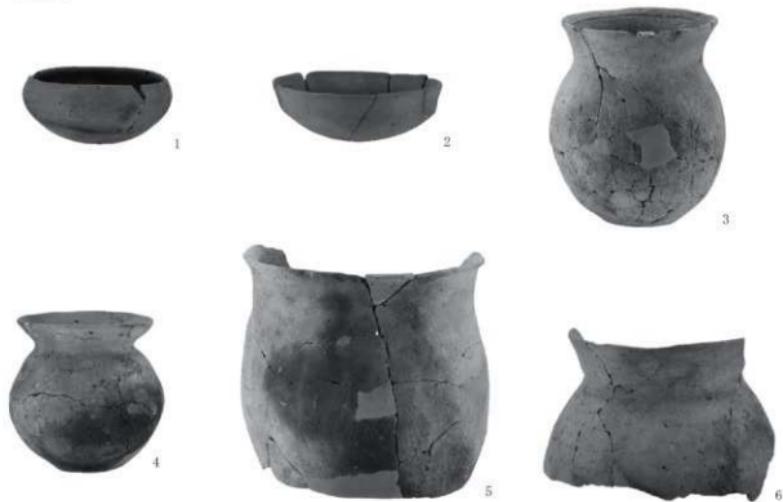
H4号住



H4 号住



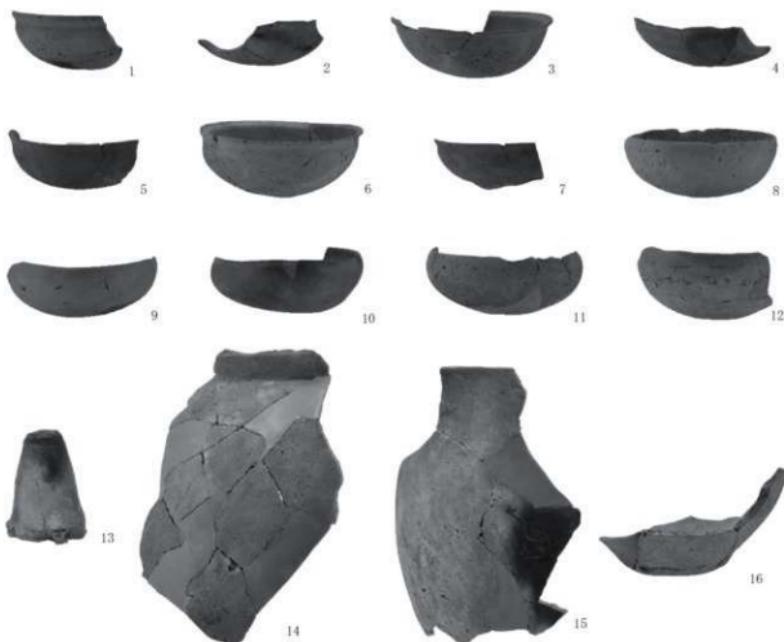
H5 号住



H6 号住



H7 号住



1号古墳



1



|



2



6

1号古墳



3号土坑



遺構外



発掘調査報告書 抄録

ふりがな	こくがしもつじいせき
書名	国衙下辻遺跡
副書名	小規模土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	1
シリーズ番号	
編著者名	壁伸明
編集機関	安中市教育委員会
編集機関所在地	〒379-0192 群馬県安中市松井田町新堀245
発行年月日	西暦 2010年1月29日

ふりがな 所 収 遺 跡	ふりがな 所 在 地	遺跡コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
国衙下辻遺跡 こうがしもつじいせき あんちゅうしきわいせき	安中市公井田町国衙 こうわいちょう 下辻 329他	102113 U-641	36°19'9"	138°49'12"	2008.12.1 ~ 2009.1.16	570 m ²	小規模 土地改良事業

所 収 遺 跡 名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
国衙下辻遺跡	集落 古墳	弥生時代 古墳時代 中世	弥生時代～ 古墳時代堅 穴住居址 古墳	弥生土器 土師器 円筒埴輪	弥生時代～古墳時代の集落跡。 九十九川流域では最古級の古墳。

国衙下辻遺跡

- 小規模土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -

平成 22 年 1 月 25 日 印刷

平成 22 年 1 月 29 日 発行

編集・発行／安中市教育委員会

〒379-0192 群馬県安中市松井田町新堀245

TEL 027-382-1111(代表)

印刷・製本／株式会社川島精版

群馬県前橋市大渡町一丁目 9 番地の 9